

第2章

アイヌ民族の 歴史・文化等に関する 指導実践例



札幌市教育委員会では、アイヌ民族に関する教育推進上の課題を踏まえた教材の開発及び課題探究的な学習における指導方法の工夫、小学校と中学校の接続の在り方等、具体的な授業実践を通してアイヌ民族に関する教育の普及・啓発に今後も努めていきます。

【写真：令和元年度札幌市研究開発事業「アイヌ民族に関する教育の充実」に係る研究授業の様子】

1 アイヌ民族の歴史・文化等の指導に関する基本的な考え方

(1) 人間尊重の精神や人権問題についての正しい理解を踏まえた指導

学校教育は、個人の価値と尊厳を重んじ、真理と正義を愛する人間の育成を期するとともに、自他の敬愛と協力によって文化の創造と発展に貢献することを目指して行なわれるものである。

我が国の社会制度の基本は、全ての国民がかけがえのない人間として尊重され、かつ基本的人権が保障されることであり、各学校においてアイヌ民族の歴史・文化等に関する教育を推進するに当たっては、様々な人々の生活や風習、文化等を尊重する態度を身に付けるとともに、人権問題についての正しい理解を踏まえて指導する必要がある。

(2) アイヌ民族の歴史・文化等の正しい理解を深めるための指導

私たちがアイヌ民族の歴史・文化等について学習する時、過度に「自然」と結び付けたり、しっかりした根拠のない言説を広めてしまったりすることのないよう、アイヌ民族の歴史・文化等の正しい理解が必要である。アイヌ民族が周囲の自然資源に対して比較的今日で言う持続可能性を意識した面があったと考えられるが、そのような面は他の民族・社会であっても、いわゆる伝統的な生活にあっては見られたものだという点を踏まえておくべきである。

【アイヌ民族の歴史・文化に関する授業を行う際の配慮事項】

アイヌ民族の歴史・文化に関する授業を行う際には、「自然との共生」といったフレーズを安易に用いないこと、十分な裏付けのないまま一般化して指導しないこと、アイヌ文化の地域差、歴史的な移り変わりなどに注意を払うことなどの必要がある。そのため、本章に掲載している実践例についても、常に検証しながら参照することが大切である。

(3) 「学習指導要領」や「札幌市教育課程編成の手引」（市教委発行）を踏まえた指導

アイヌ民族の歴史・文化等に関する指導に当たっては、「学習指導要領」や「札幌市教育課程編成の手引」との関連を十分に考慮し、地域の実態や児童の発達の段階に即した指導が大切である。

また、アイヌ民族の歴史・文化等に関する指導は、学校教育全体で行うことが肝要であり、教科等の特質を踏まえ、その関連を図りながら、社会科をはじめとする各教科、特別活動、総合的な学習の時間等、教育活動全体において実践することが重要である。

さらに、各学校においては学校段階間の接続を意識し、系統性のある指導計画を作成するとともに、校種間の連携を図り、学習内容の充実を図ることも大切である。

(4) グローバル化の進展を踏まえ広い視野から民族問題を考えさせる指導

グローバル化する国際社会において、我が国の文化や伝統を尊重する態度を育成するとともに、諸外国の文化等について正しい理解を図ることが大切である。この点からも、発達の段階に応じて、より広い視野から民族問題を考えさせ、アイヌ民族に関する学習を進めていくことが大切である。

2 アイヌ民族の歴史・文化等の指導に関する配慮事項

(1) 教科書や副読本を活用する際の配慮事項

アイヌ民族の歴史・文化等に関する学習を進めるに当たっては、教科書や「アイヌ民族：歴史と現在」（公益財団法人アイヌ民族文化財団）などの副読本、その他の資料等を十分活用する。また、年代や出典の確かな写真や資料を使用する必要がある。

(2) 具体的に指導を展開する際の配慮事項

具体的な指導に当たっては、指導のねらい、内容、地域の実態、子どもの発達の段階等を十分に検討し、効果的な指導ができるよう配慮する。

- ・学習のまとめに新聞等を作成する場合には、アイヌ民族の歴史・文化等についての正しい理解を図り、誤解のないように配慮する。
- ・子どもの興味や関心、意欲を高め、共感的な理解を図るために、サッポロピッカコタンやウポポイ等の関連施設の見学、アイヌ教育相談員の学校派遣などを積極的に活用する。その他、具体物や視聴覚教材等の活用など、体験的な活動を充実させるよう工夫をする。
- ・指導の場面では、アイヌ民族に対する差別や偏見につながるような言葉に十分配慮する。また、アイヌ民族の過去の生活状況や変遷などについては、歴史的な事実を正しく指導するとともに、現在のアイヌ民族の状況についても正しい認識をもたせるようにする。
- ・地図帳を活用しながら、アイヌ語地名やアイヌ語での挨拶などについても積極的に触れ、アイヌ語に親しむようにする。

【アイヌ民族の児童生徒に対する配慮事項】

- アイヌ民族の児童生徒に対する新たな偏見、差別やいじめ等が起きないように、十分に配慮する必要がある。
- ・アイヌ民族の文化や自然観は、自然と人間の共生の在り方について貴重な示唆を与えるものであり、児童生徒がアイヌ民族の文化や自然観等を尊重する態度を身に付けるよう指導を工夫する。
 - ・アイヌ文化に見られる生活様式は、昔のアイヌ民族の生活様式であることを踏まえた指導をし、児童生徒がアイヌ民族に対する偏見をもたないように指導する。
 - ・アイヌ民族の児童生徒の心情に十分配慮し、アイヌ民族に関する学習を行う前にはアイヌ民族の児童生徒や保護者との話し合いにより共通理解を図るとともに、学習後の児童生徒の心情についても確認する。

小学校第1学年 図画工作科 【実施時期：4月】

■ちよきちよき かざり

本時のポイント

はさみの持ち方、使い方について学習する際、アイヌ文様を活用することで、紙の折り方や重ね方によって模様が変わることに目を向けることができる。また、関心をもったアイヌ文様を組み合わせたり、向きを変えたりして切り取り、教室がすてきな感じになる飾りを作ることで、アイヌ民族の伝統や文化に興味をもてるようにする。

本時の展開（2／2）

子どもの学習活動



アイヌ文様には、まっすぐな線と曲がった線があるね

アイヌ文様を自分も作ってみたいな

折ったり重ねたりしたらいろいろな文様ができそう

飾りを作ってなかよしな雰囲気の教室にしたいな

どんな飾りを作れば、教室をすてきにできるだろう。

モレウ
(ゆるやかに曲がる)


アイウシ
(矢・トゲがある)


シク
(目)


アイウシモレウ


ウレンモレウ
(四方が曲がる)


シクウレンモレウ


まずは、簡単な文様からつくってみよう

曲線を多くするなど、工夫をしてみよう

組み合わせたり向きを変えたり

組み合わせたら、きれいな飾りができるよ

向きを変えると、模様も変わってくるよ




組み合わせたり向きを変えたりして切り取ると、いろいろな模様の飾りができるね。

課題探究的な学習を取り入れた授業を充実させるセルフチェックの視点

**セルフチェック1
(興味・関心・疑問をもてる)**

アイヌ文様の直線・曲線からなることを共有し、自分たちの思いを込めた文様を作ることで、教室が素敵になることをイメージし、興味・関心を高める。

※アイヌ文様は地方によって様々なものがあることに留意する。

**セルフチェック6
(学びのよさを実感)**

作った文様に込めた思いや願いを共有し、かざりを次々につなげていくことで、みんなでかざりをつくったよさを実感させていく。

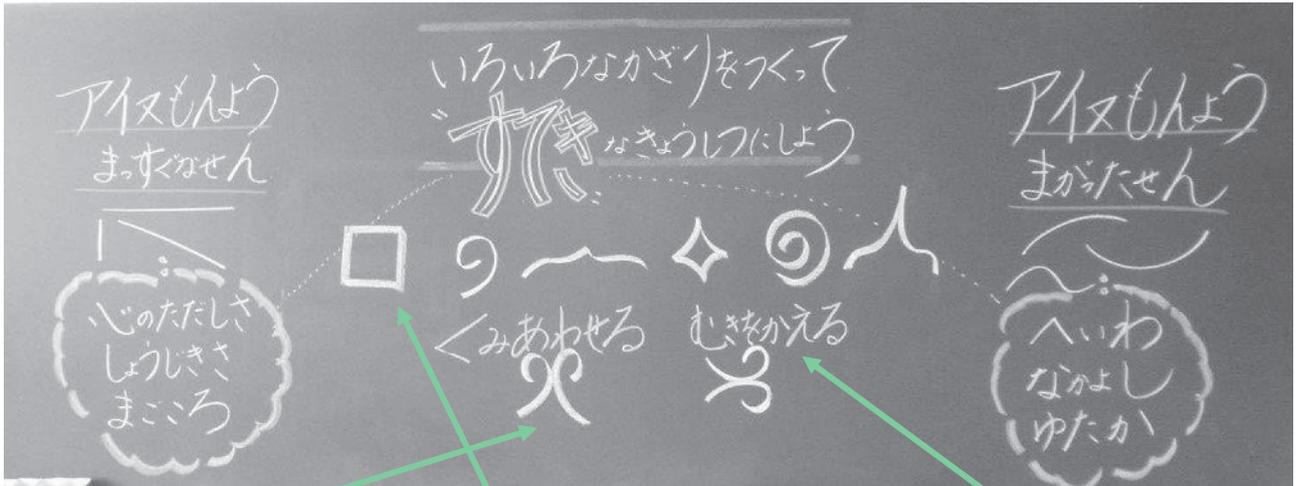
【領域及び生活のつながり】

3年生社会科の学習におけるアイヌ語地名についての学習でもアイヌ語の意味があることにつなげていく。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

基本的なアイヌ文様を組み合わせたり、向きを変えたりして切り取ることで、いろいろな模様の飾りができ、教室がすてきな感じになることを実感する。

板書例



①様々なアイヌ文様を子どもたち提示することで、思いをもったかざりにすることがすてきな教室になることを共有する。

②基本的な文様をいくつか提示して、実際にみんなで切ってみることで、イメージを膨らませていく。

③活動の中で、文様を組み合わせたり向きを変えたりしている子を取り上げ、価値付けることで、いろいろな文様が作れることを確認する。

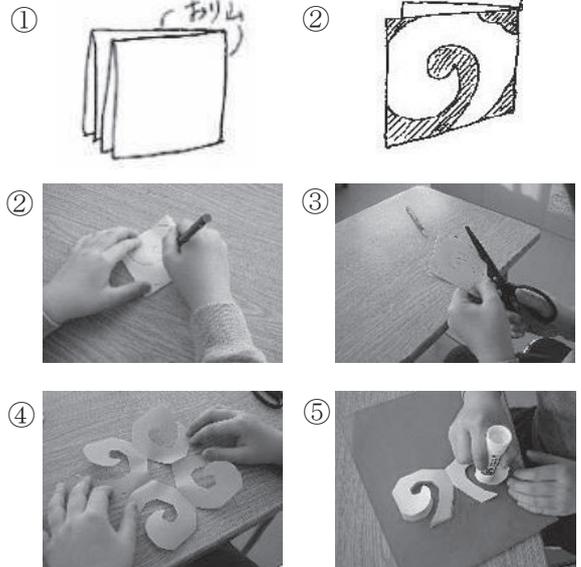
基本的な作り方・留意点



- ①折り紙の色の付いた面を内側にして、正方形になるように四つ折りにする。
- ②折り目の位置に気を付けて、線を描く。

- ③はさみの持ち方や切り方に気を付け、②で描いた文様の線に沿って切る。
- ④丁寧に広げる。
- ⑤作品を、色画用紙などに貼るときれいな掲示物になる。窓などに貼るなどしてもよい。

※アイヌ民族より北方に暮らすウイльта民族の文様もアイヌ文様と要素は共有しており、参考になる。



参考文献

- ・『アイヌ民族の歴史・文化等に関する指導資料第5集』札幌市教育委員会
- ・『アイヌ文様切り絵キット（作り方マニュアル）』札幌市アイヌ文化交流センター

小学校第3学年 社会科 【実施時期：6月】

■わたしたちのまち みんなのまち

単元のポイント

第1単元「わたしたちのまち みんなのまち」では、自分たちの住んでいる身近な地域について、特色のある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る地名や建造物などを観察、調査したり、地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるよう単元を構成する。

特に、小単元2「市の様子」の中で、アイヌ語地名とその意味を調べ、今と昔を比較しながら、自分たちの地域の地名の意味や地形的特徴やくらしの様子を捉えられるようにする。

単元構成（10時間扱い）

子どもの学習活動	
1	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> 市の広さや形が分かるね。札幌市には、どんな場所があるのかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> 札幌市は10区に分かれているんだ。各区はどのような様子なのかな。 </div> </div>
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 札幌市には、どのような場所があり、それぞれどのような様子なのだろう。 </div>
3	
4	
5	
6	
7	
8	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><調べるところ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌中心部 ・豊平川に沿ったところ ・畑や工場の多い所 ・住宅の多い所 ・自然の多い所 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><調べる観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地の様子使われ方 ・アイヌ語地名の由来 ・建物の様子 ・人の様子 ・交通の様子 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><調べる方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に行って調べる（見学、観察、体験、インタビューなど） ・インターネットの活用 ・手紙を書いて質問する </div> </div>
9	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 札幌市には、区ごとに様々な場所や土地の使われ方や交通の様子、アイヌ語の地名がたくさんあることが分かったね。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;"> 札幌の昔がどんな様子だったのか、アイヌ語の地名から分かるかな。 </div>
10	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><水に関係する地名></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナイポ（苗穂）→小さい川 ・パルト（茨戸）→広い沼 ・モエレペット（モエレ沼）→流れの遅い川 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><土地の様子が分かる地名></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インカルシペ（藻岩山）→眺める所 ・ニセイオマプ（簾舞）→絶壁のある所 ・ヌプオロ（野幌）→野の中 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> アイヌ語の地名からそれぞれの土地の様子が想像できるね。 </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">白地図にまとめよう</p>

本時の目標

単元での学習を生かして、アイヌ民族が暮らす札幌の昔の生活の様子やアイヌ語地名に興味をもち、進んで調べることができるようにする。

本時の展開 (9/10)

子どもの学習活動

調べたアイヌ語地名はどんな地名があったのかな？

サッポロペツ（札幌）は、乾いた、大きい、川という意味って書いてあるよ。

トゥイエピラ（豊平川）は、崩れる崖を意味しているんだって。

大きな川や崖でどんな生活をしていたのかな？もっとアイヌ語地名を調べてみたいな。

他の勉強してきたまちの名前にも、アイヌ語地名があるのかな？

札幌の昔がどんな様子だったのか、アイヌ語の地名から分かるかな。

<水に関係する地名>

- ・ナイポ（苗穂）→小さい川
- ・パラト（茨戸）→広い沼
- ・モエレペット（モエレ沼）→流れの遅い川

小さい川の近くや広い沼で多く水を使っていたのかな。昔も水って大切なものだったんだ。

<土地の様子が分かる地名>

- ・インカルシペ（藻岩山）→眺める所
- ・ニセイオマプ（簾舞）→絶壁のある所
- ・ヌプオロ（野幌）→野の中

水だけじゃなく、植物や景色の見え方など、自然が生活と関わっている様子が分かるかもしれないよ。

自然との関わり

アイヌ語の地名からそれぞれの土地の様子が想像できるね。

課題探究的な学習を取り入れた授業を充実させるセルフチェックの視点

セルフチェック1
(興味・関心・疑問をもてる)
前時で調べているサッポロペツ・トゥイエピラの意味について共有し、札幌の昔の様子について予想することで、問いを生む。

セルフチェック5
(多面的・多角的に考察)
単元で学習してきたアイヌ語地名以外にも、資料をもとに調べる時間を確保する。「水」以外にも、「土地の様子」を表す地名もあることに気付くように促し、多面的に考えることができるようにする。

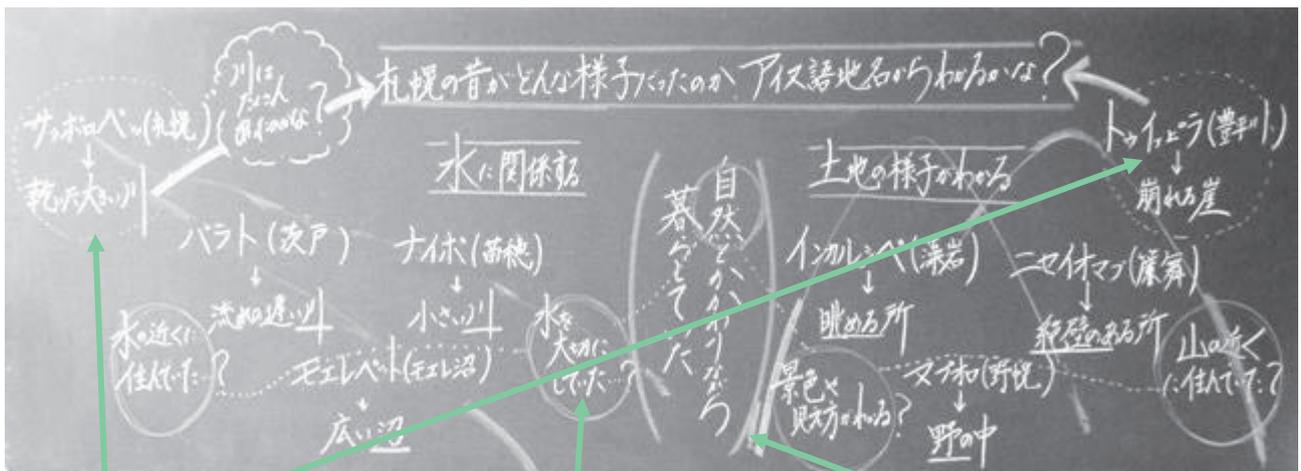
[領域及び生活のつながり]

4年生の副読本の写真を見ることで、自然と関わり合いながら、生活していたアイヌ民族の様子を知り、つながりをもてるようにする。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

札幌のアイヌ語起源の地名の意味について、単元で学んできた土地の特色や地名などと結び付けて考えることができる。

板書例



①前時のアイヌ語地名の意味を確認し、昔の札幌の様子を想像することで、問いにつなげていく。

②アイヌ語地名から、昔のくらしの様子や大切にしていたことを想像することで、自然との関わりに気付くようにする。

③川の近くや山のふもとでくらすことに意味があることから、4年生の学習につなげるようにする。

アイヌ語が起源の札幌の主な地名

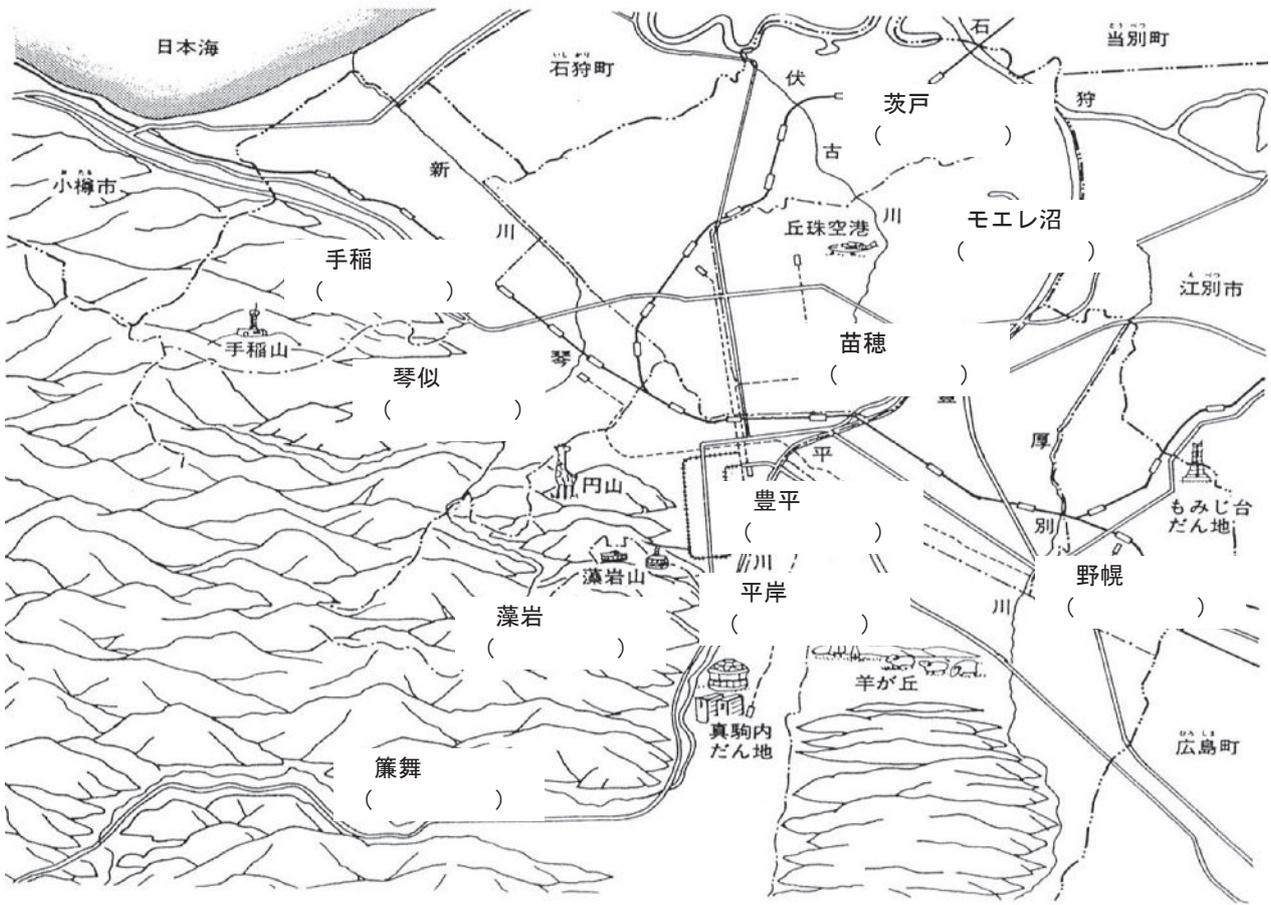
【札幌のアイヌ語地名（現在の地名…アイヌ語…その意味）】

- ◇札幌…サッポロベツ…乾く・大きい・川
- ◇豊平…トウイェピラ…崩れる崖
- ◇厚別…ハシベツ…雑樹・川
- ◇琴似…コツネイ…凹地・になっている・もの
- ◇手稲…テイネニタツ…濡れている・湿地
- ◇苗穂…ナイポ…小さい川
- ◇平岸…ピラケシ…崖の端
- ◇野幌…ヌプオロ…野・の中、所
- ◇茨戸…バラト…広い・沼
- ◇伏古、伏籠…フシコサッポロ…古い・札幌川
- ◇簾舞…ニセイオマプ…絶壁のある所
- ◇アシリベツ…アシリベツ…新しい・川
- ◇モエレ…モエレベツ…遅流の(?)・川・沼

出典「アイヌ語地名リスト」(北海道環境生活部)

※多くの地名解釈は、基本的に推論であることを踏まえ、授業で活用する。

わたしたちのまち みんなのまち ワークシート



【単元のまとめ】

3年 組 ()

※単元を通して、学習した順番に、鉄道や地下鉄、国道、空港、市や区の境、周辺の市町村名、アイヌ語地名などを記入したり、色を付けたりしていきましょう。

参考文献・取材先

- ・北海道環境生活部 (2001) 『アイヌ語地名リスト』 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- ・北海道環境生活部 (2001) 『アイヌ語地名ハンドブック』 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- ・山田秀三 (1984) 『北海道の地名』 北海道新聞社

小学校第4学年 社会科 【実施時期：8月】

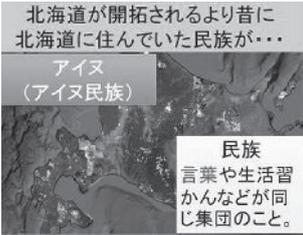
■アイヌ民族の昔のくらしと今につながる文化

単元のポイント

本単元では、日本の先住民族であるアイヌ民族が自然を生かした生活を送っていたことについて理解することがねらいである。そこで、北海道では、開拓されるより前にアイヌ民族が住んでいたことを提示し、アイヌ民族のくらしに興味をもち、道具や衣服、食べ物、文化、遊びなどについて追究していくような単元を構成する。

本時では、アイヌ民族が川沿いに住んでいた意味を考える。今まで学習した衣食や道具などと結び付けることで、生活に便利な場所だったことに気づき自然を上手に活用していたアイヌ民族の知恵に迫ることができるようにする。最後に1855年の十勝のアイヌ集落分布図を提示することで、多くのコタンが川沿いにあった事実から自然を生かしたアイヌ民族の生活を広い視野から捉えられるようにする。

単元構成（5時間扱い）

子どもの学習活動	
1	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;">昔から住んでいたからアイヌ語の地名が多いのかな</div> <div style="text-align: center;"> <p>北海道が開拓されるより前に北海道に住んでいた民族が…</p>  <p>アイヌ (アイヌ民族)</p> <p>民族 言葉や生活習慣などが同じ集団のこと。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;">昔のアイヌ民族はどのような生活を送っていたのかな</div> </div>
2	アイヌ民族はどのような生活を送っていたのかな。
3	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 20%;"> <p><遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・投げ輪突き ・魚突き </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 20%;"> <p><衣></p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の毛皮 ・サケ皮の服 ・アットウシ </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 20%;"> <p><食></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サケ、マス ・鹿、熊 ・木の実、山菜 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 20%;"> <p><住></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チセ ・コタン </div> </div>
4	<p><道具> ・ムックリ ・弓矢 ・船 ・つきかぎ ・鹿笛</p>
	アイヌ民族の生活を少し知ることができたよ。
	どうして、アイヌの人々は川のそばに住んでいたのだろう。
5 (本時)	<div style="text-align: center;"> <p>移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船を使って移動できる ・重い物でも運べる </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サケやマス ・動物が来る </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">川</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>衣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サケの皮や動物の毛皮で服を作る </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px; background-color: #cccccc; padding: 5px; font-weight: bold;">生活に便利</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>アイヌ民族は、移動がしやすく食べ物がとれて、生活に便利だから川のそばに住んでいたんだね。</p> </div>

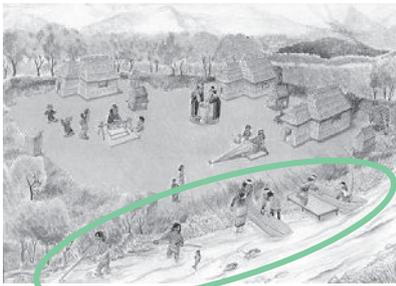
本時の目標

昔のアイヌ民族が川のそばに住んでいた理由について衣食などの視点から考え、表現することを通して、自然を生かして生活するのに便利な場所に住んでいたことについて理解できるようにする。また、単元での学習を生かして、昔のアイヌ民族が川のそばに住んでいた理由について進んで考えようとする態度を養う。

本時の展開 (5 / 5)

子どもの学習活動

アイヌ民族が多く住んでいた場所は？



いろいろなことをしているね

川の近くにたくさんの方がいるよ

川のそばに住んでいる

どうして、アイヌ民族は川のそばに住んできたのだろう。

移動

- ・船を使って移動できる
- ・重い物でも運べる

食

- ・サケやマスなどの魚が獲れる
- ・水を飲み、動物がやってくる

川

衣

- ・サケの皮や動物の毛皮で服を作る

生活に便利

アイヌ民族は、移動がしやすく食べ物がとれて、生活に便利だから川のそばに住んできたんだね。

1850年ころの十勝のコタン分布予想図(6戸以上)



やっぱり川のそばに住んでいるね。

自然を上手に生かしているんだね。

便利な生活ができるように、自然を生かしていたんだね。

課題探究的な学習を取り入れた授業を充実させるセルフチェックの視点

セルフチェック1 (興味・関心・疑問をもてる)
資料からアイヌの人々が川のそばに住んでいた事実を捉え、その理由について問いを生む。

セルフチェック5 (多面的・多角的に考察)
単元で学習してきたアツシや動物の毛皮など「衣」の視点や、サケやシカを食料にしていたという「食」の視点などと関係付けて、多角的に考えるようにする。

セルフチェック6 (学びのよさを実感)
1850年頃の十勝のコタン分布予想図を提示することで、多くのコタンが川のそばにあったことに気付くようにし、一般化を図る。

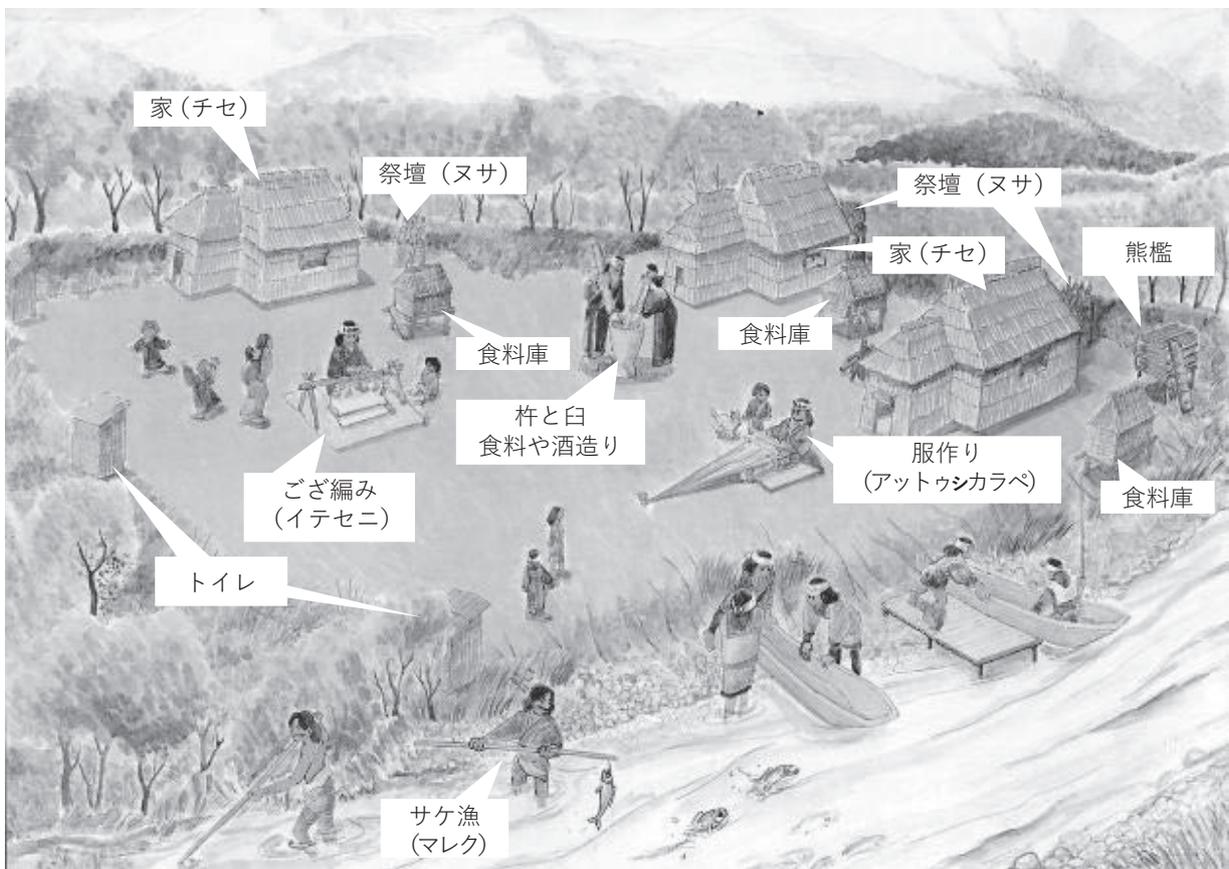
[領域及び生活のつながり]

自然を生かした生活をしていることが分かるようにする。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

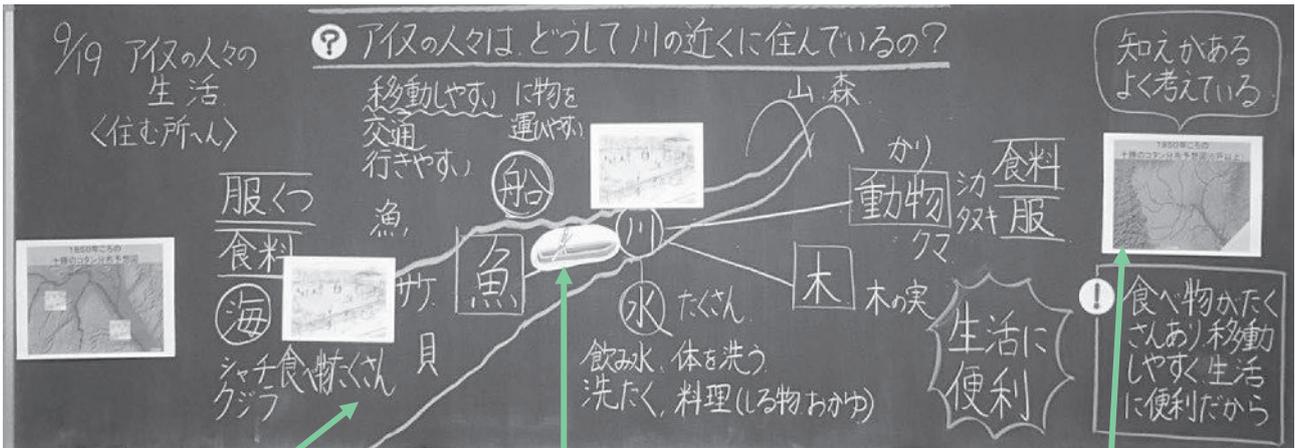
1850年頃の十勝のアイヌ民族が川のそばに住んでいた理由について、単元で学んできた衣食などと結び付けて考えることができる。

資料



【出典：コタンの絵（帯広百年記念館蔵）】

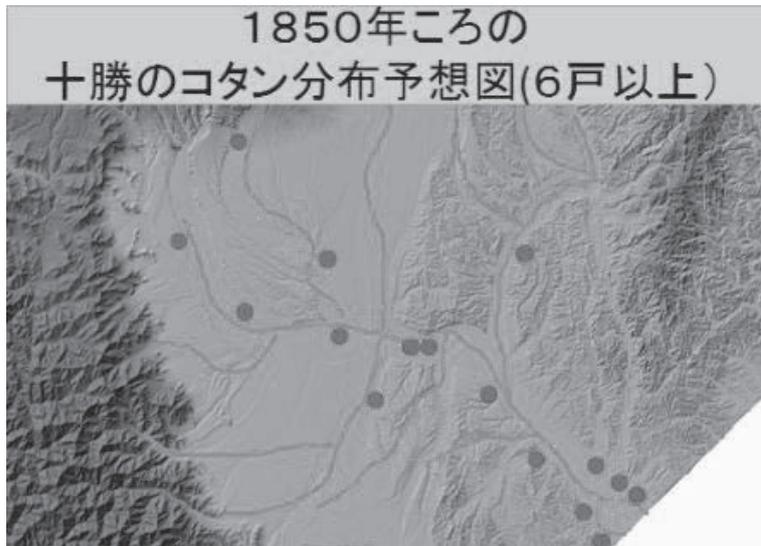
板書例



①山や川を板書に位置付けることで、アイヌ民族の住んでいた場所のよさを視覚化する。

②板書上で船を実際に動かして、川を移動することで、移動や輸送が便利などを実感できるようにする。

③1850年頃の十勝のコタン分布予想図を提示することで、一般化を図る。
※国土地理院の地理院地図の色別標高図により作成。



参考文献・取材先

- ・『アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－』公益財団法人アイヌ民族文化財団
- ・『アイヌのチャシとその世界』北海道出版企画センター

小学校第4学年 社会科・総合的な学習の時間 【実施時期：8月】

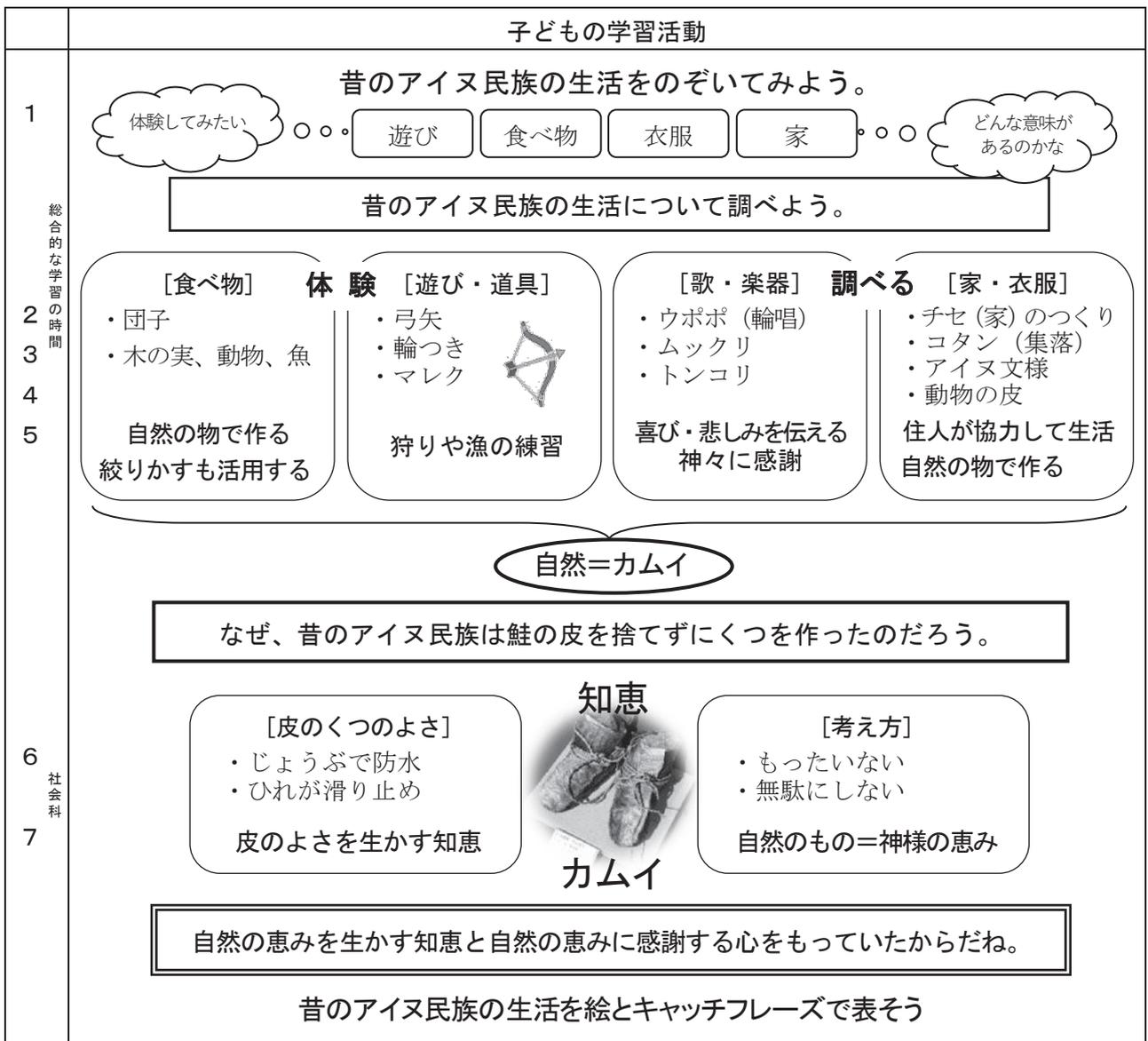
■アイヌ民族の昔の暮らしと今につながる文化

単元のポイント

本単元では、アイヌ民族が自然の恵みを生かし感謝の気持ちをもって生活していたことが分かることをねらいとしている。子どもたちは、「昔のアイヌ民族の生活について調べよう！」という活動の目的をもち、団子作り、弓矢や輪突きなどの遊び、歌や踊り、楽器に触れる体験などを通して、アイヌ民族の暮らしについて、個々に感じ取っていく。

本時では、サケの皮で靴（チェブケリ）を作っていたという事実を通して、いただいた命を無駄なく使い、感謝して送り出すというアイヌの自然観に気付いていくことをねらう。「アイヌ民族は、最後まで生き物や道具に感謝の気持ちをもっていた。」「ゴミとしてではなく、カムイとして丁寧に送り、また自然の恵みとして来てほしいと願った。」など、人間は自然の中で生かされているという自然観を実感していく。

単元構成（5時間：社会科＋2時間：総合的な学習の時間）



本時の目標

昔のアイヌの民族の生活の工夫に気付き、自然を敬い大切に自然観について考え、表現することで、自然のものを生かす知恵や自然への感謝について理解することができるようにする。また、単元での学習を生かして、昔のアイヌ民族がサケの皮で靴を作っていた理由について進んで考えようとする態度を養う。

本時の展開 (6 / 7)

子どもの学習活動

鮭を刺すのは
少し可哀想…




マレク漁の映像(前時)

サケを無駄なく食べている！最後に残った「皮」は…？

**なぜ昔のアイヌ民族は、サケの皮を
捨てずにくつを作ったのだろう？**

【皮のくつのよさ】

- ・じょうぶで軽い
- ・魚の皮だから防水
- ・ひれが滑り止め
- ・皮をはがして
縫うのは大変そう

皮のよさを生かす知恵



【アイヌ民族の考え方】

- ・もったいない
- ・命を無駄にしない
- ・団子の時も絞りかす
を保存食にしていた
- ・神の魚だから

自然のもの＝神様の恵み



アイヌ教育相談員

古くなって使えなくなった
道具をアイヌ民族は…



**長く役に立った道具が使えなくなったときは、神の国へ
送り返したものです。**

**自然の恵みを生かす知恵と
最後まで自然の恵みに感謝する心をもっていただけだね。**

課題探究的な学習を
取り入れた授業を
充実させる
セルフチェックの視点

セルフチェック 1
(興味・関心・疑問をもてる)
サケを無駄なく食べている事実を提示した上、残った皮を捨てずに靴にしている事実から問いを生む。

セルフチェック 5
(多面的・多角的に考察)
チェブケリ(サケの皮の靴)の実物に触れたり、これまでに体験しながら学んできたことを、結び付けたりしながら、多角的に考えるようにする。

セルフチェック 6
(学びのよさを実感)
古くなって使えなくなった靴を送る意味を考えることで、アイヌ民族の自然観についてさらに考えを深め、学びのよさを実感する。

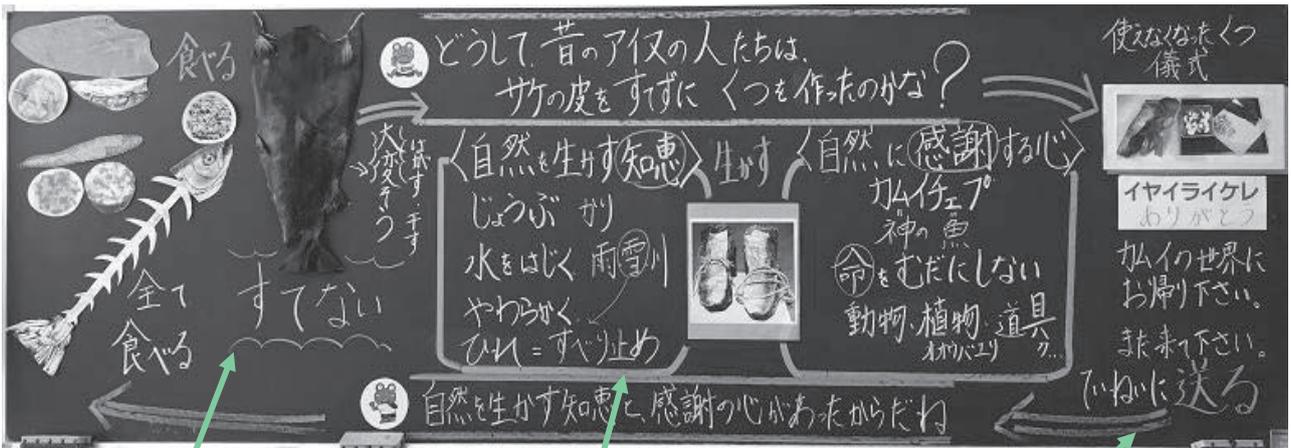
〔領域及び生活のつながり〕

自然を生かす知恵とアイヌ民族の考え方が分かるようにする。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

自然の恵みを生かし切る知恵と、自然の恵みに感謝の気持ちをもって
いたということについて考えることができる。

板書例



①サケの部位を一つずつ見て、様々な料理にして無駄なく食べていることを確認し皮だけ残すことで、皮の活用方法に焦点化していく。

②チェプケリに触ったり、サケの皮を濡らしたりする活動から、自然を生かす知恵を実感できるようにする。

③古くなって使えなくなった靴を「送る」儀式を、アイヌ教育相談員の方に、アイヌ語で実演してもらい、意味を考えることで、自然に感謝する心などアイヌの自然観についてより深く捉えられるようにする。

資料

(例) 古くて使えなくなった道具を「送る」儀式のお供え物の再現

※アイヌ文化の地域差、歴史的な移り変わりなどに注意を払う必要があります。



このほかにも、長く役に立った道具が使えなくなったときは、以下のようなお礼の言葉を言いながら外の祭壇におき、神の国へ送り返したということもあるそうです。

※ニマ（かなり古い時代に使用された炊事用具の一つ）を送るお礼の言葉の例

ニマカムイ イヤイライケレ オトウイワンパ オレイワンパ アイヌエイワンケプネ エアンワ
ウレンパピリカプ チキルウェネ タネ ニマカムイ エネヤッカ エオンネクス カムイコタノロ
エコホシピ キトウイカシ スツテケトツ アオランケ ハルトウラノ タンパクオッタ
イモカトシカ エコロカネワ カムイオッタ エアラパヤクネ カムイオロワ アラムアイェクニプ
ネナンコロナ ピリカノイワクワ エンコレヤン

～ニマの神様ありがとう。長い長い年月をアイヌのために働いて下され、私たちは子供を育てることができました。今はニマ神、あなたも年をとったので神の国へおもどりください。それで天国より祖母の手に降された穀物とともに、たくさんのお土産を持ってお帰りください。神の国へお帰りになると、あなたは神々から誉めそやされるでしょう。お気をつけて神の国へお帰りください。ありがとうございました。

【出典：萱野 茂『アイヌの民具』すずさわ書店】

サケの皮で作った靴（チェプケリ）と服（チェプウル）について



チェプケリとは？

チェプケリとは、サケの皮で作られた靴のことで、一足を作るために、3～4匹のサケの皮が必要であった。また、縫い糸にはイラクサで作った糸が使われていた。

チェプケリと1枚物のサケの皮は、豊平川サケ科学館で借りることができる。

<作業工程>

- ① 皮をはぐ……頭・腹びれ・尾びれに切れ目を入れて皮をはがしていく。
- ② 乾燥させる……身をきれいに取り除き、2週間程乾燥させる。
- ③ 型をとる……土踏まずに背びれ（滑り止め用）、くるぶしに腹びれがくるようにして、足の大きさに合わせて型をとる。
- ④ 縫う……内側に織り込みながら縫っていく（防水）。
- ⑤ ひもを作る……オヒョウの木の皮を裂いたものを編み、靴ひもを作る。



チェプウルとは？

チェプウルとは、サケやマスなどの魚の皮を合わせて作った服です。樺太（サハリン）に住むアイヌ民族が着ていました。

※どちらも、アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）の資料館に展示されている。

参考文献・取材先

- ・『アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－』公益財団法人アイヌ民族文化財団
- ・『アイヌ生活・文化再現マニュアル「縫う」』公益財団法人アイヌ民族文化財団
- ・アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」

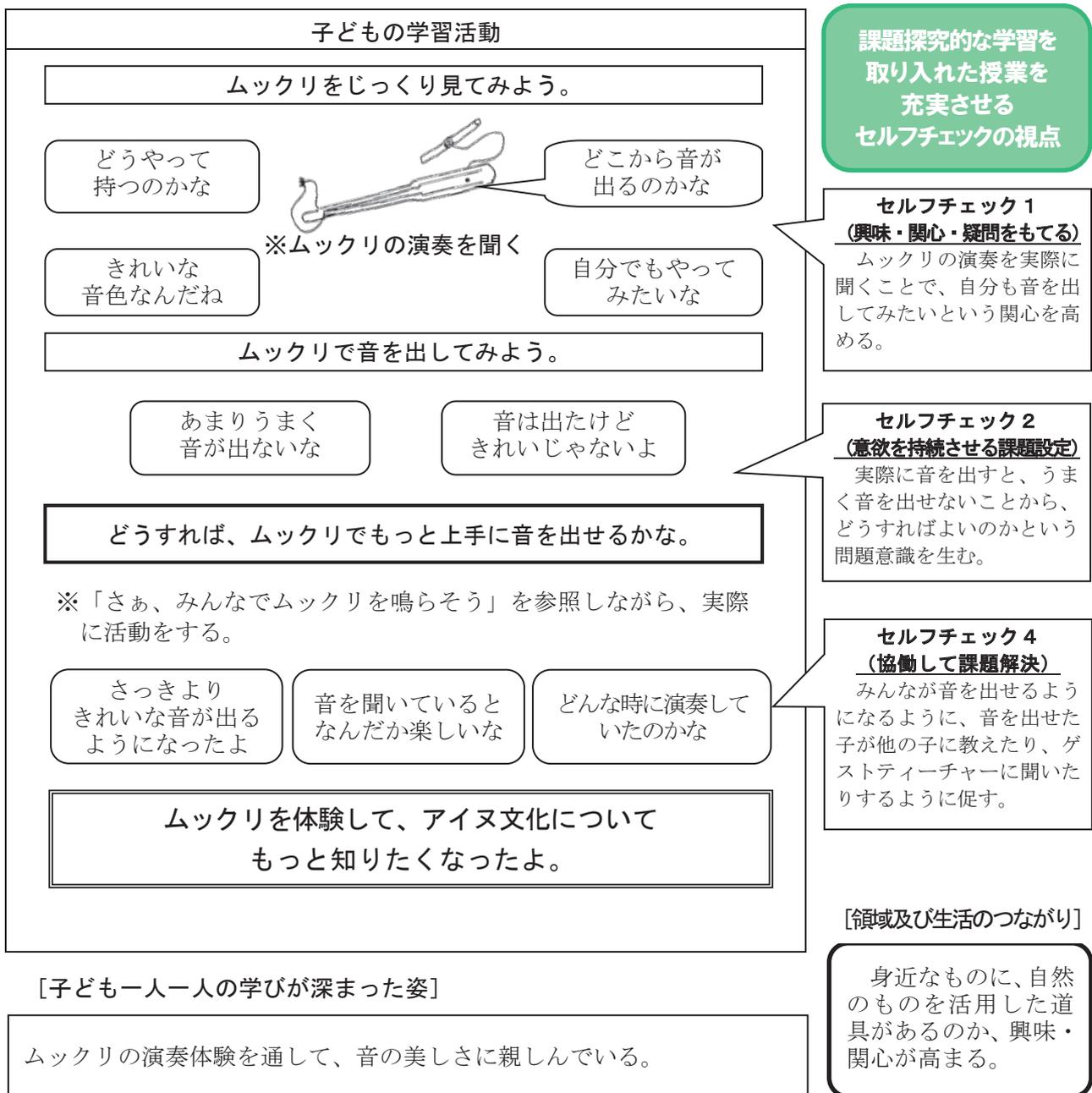
小学校第4学年 社会科 【実施時期：8月】

■ムックリの演奏体験を通して、アイヌ文化に親しむ

本時のポイント

アイヌ民族の伝統的な楽器の一つであるムックリを使って音を出す体験を通して、実際に音を出す難しさなどを知るとともに、この体験をきっかけにアイヌ文化の様々な要素に親しみや関心をもてるようにする。

本時の展開（3／5）



活動準備・留意点

- ・札幌市教育委員会所有のムックリを借りることができる。
- ・札幌市教育委員会アイヌ教育相談員の派遣や札幌市アイヌ文化交流センターのアイヌ文化体験プログラム等を活用し、教えてもらうことも可能である。

ムックリについて

○ムックリの持ち方（右利きの場合）

<左手>

- ① 小指に輪になっているひもをかける。
- ② すべすべした面に親指をあて、ひもを両面から押さえ込むようにして、握る。

<右手>

- ③ 人差し指と中指の間にひもを通して、竹ひごが手のひら側に来るように挟む。
- ④ 手を軽く握る。※左利きの場合は、手が逆になる。

○音の出し方

<「ブーン」という低くてうなるような音>

- ・竹ひごを握った手で、ひもを勢いよく引いて弁を振動させる。真横から少し前の方向に引くようにする。
- ・すばやくノックするようなイメージで。引いた後は、手首が少しはねて戻るような感じになるように、柔らかく動かす。

<「ビョーン」「ホワーン」という音>

- ・輪になったひもをかけた手の、親指のつめを唇の端に付ける。
- ・その手全体を、頬に押し付けるようにして、固定し、「ブーン」という音を出すと、口の中で音が響く。

参考文献・取材先

- ・『アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－』公益財団法人アイヌ民族文化財団
- ・『さあ、みんなでムックリを鳴らそう！』北海道立アイヌ民族文化研究センターホームページ
(http://ainu-center.hm.pref.hokkaido.lg.jp/HacrcHpImage/09/09_02_02_H24.pdf)

アイヌの
楽器

さあ、みんなで ムックリ

な
を鳴らそう！

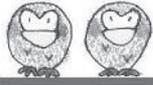
★ムックリ鳴らし方マニュアル★



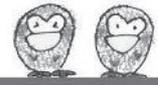
北海道立アイヌ民族文化研究センター

この冊子は、当センターが参加する「2012サイエンスパーク」
において配布するために、作成しました。

※さあ、みんなでムックリを鳴らそう（北海道立アイヌ民族文化研究センターホームページ）より転載。



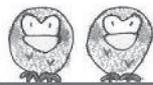
♪ ムックリとは ♪



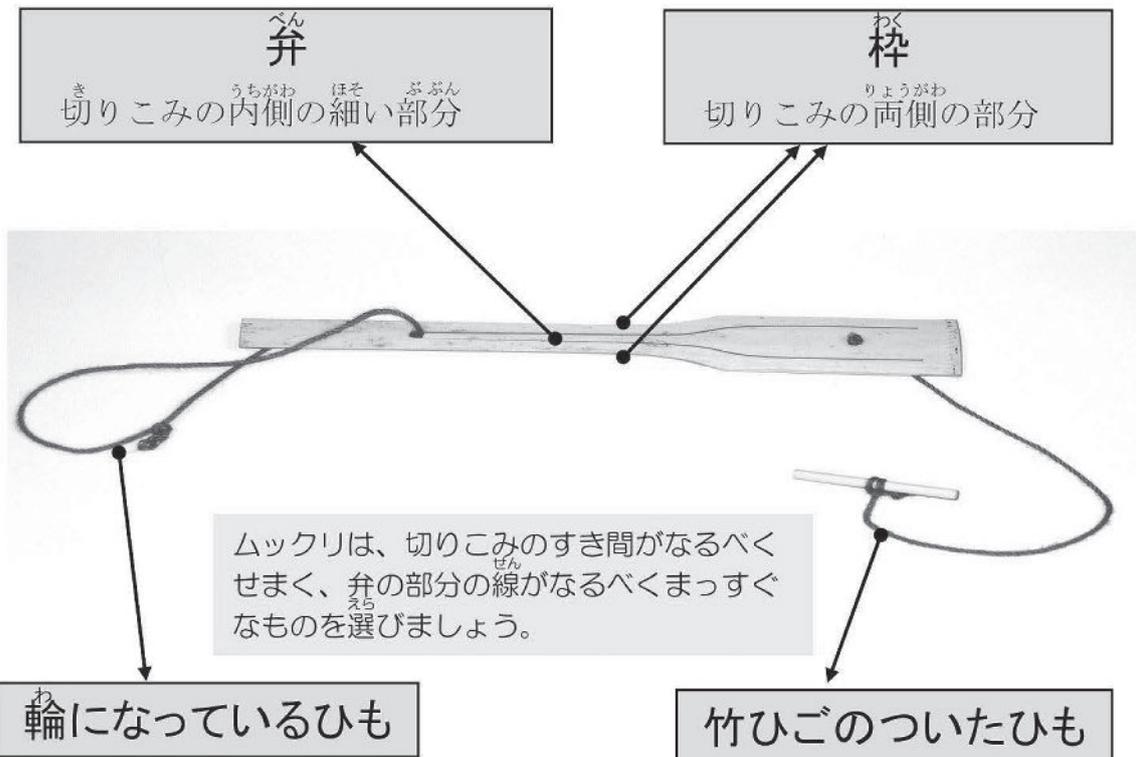
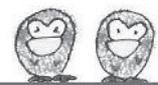
ムックリは、“口琴”と呼ばれる楽器のひとつです。
 アイヌの楽器の中では、わりあい多くの地域に伝わっています。
 「ムックリ」のほか、「ムックル」「ムクケン」などの呼び名もあります。

口琴とは

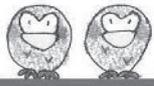
“弁”という細長い部分を振動させ、その音を口の中に響かせ、響かせ方をいろいろ変えたり組み合わせたりして、自分なりの音色の変化を楽しむ楽器です。
 口琴は、ほかの民族にもさまざまな材料や形のもの
 が伝わっています。



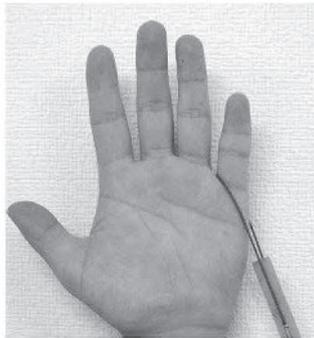
♪ ムックリのつくり ♪



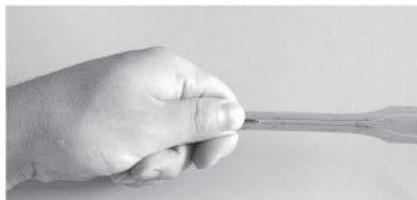
♪ ムックリの持ち方 ♪ (右ききの人のばあい)



左手



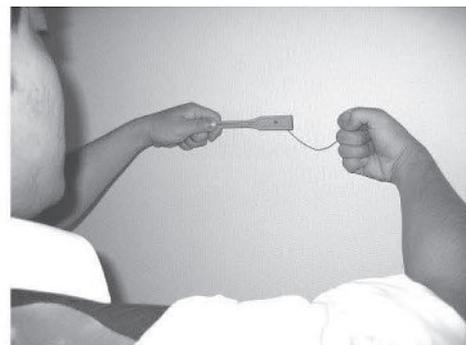
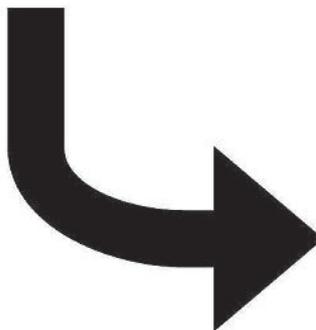
こゆび わ
小指に、輪になっているひもを
かけます。



小指にひもをかけたまま、すべ
すべしためん おやゆび
面に親指をあて、ひもを
りょうめん お
両面から押さえこむようにして、
にぎ
握ります。

ムックリがぐらぐらしないよう
に、親指でしっかり押さえます。

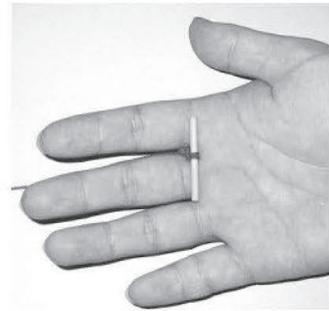
※ このとき、べん
弁まで押さえこまないように気をつけて！
※ 握ってみて、輪になっているひもが緩ければ、小さく
むす
結びなおしましょう。



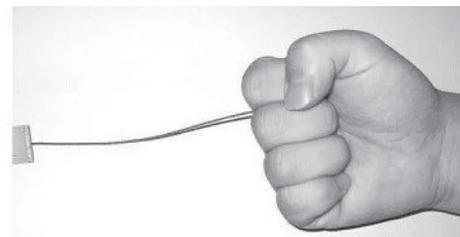
-2-

※ 左ききの方は
この図と左右が
ぎやく
逆になります。

右手



とのお
人さし指と中指のあいだにひもを
なかゆび
通して、竹ひごが手のひら側に来る
かた
ように、はさみます。



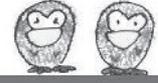
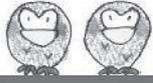
手を、かるくにぎ
握ります。



※さあ、みんなでムックリを鳴らそう（北海道立アイヌ民族文化研究センターホームページ）より転載。

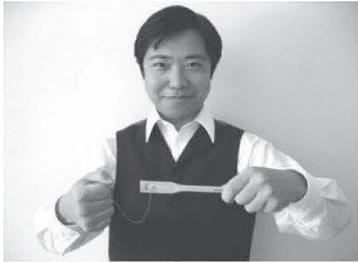
♪ れんしゅう① ♪

弁を振動させる

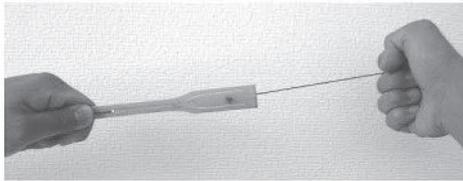


「ブーン♪」という、低くてうなるような音を出してみる！

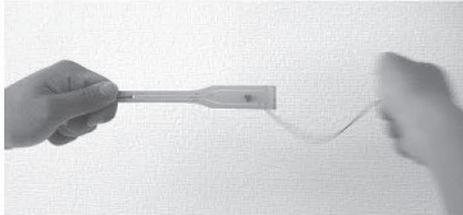
まずはじめに、手もとで音を鳴らす練習をします。



すべすべした面を自分の方に向けます。
胸の少し下あたりで構えます。
ムックリを持つ方の手が、ぐらぐらしないように、つねに気をつけましょう。



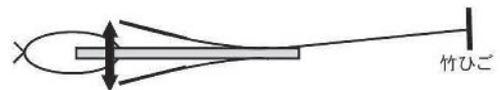
竹ひごをにぎった手で、ひもをいきおいよく引いて、弁を振動させます。
引く方向は、真横から少し前です。



すばやくノックするようなイメージで。
引いた後は、手首が少し跳ねて戻るような感じになるように、やわらかく。

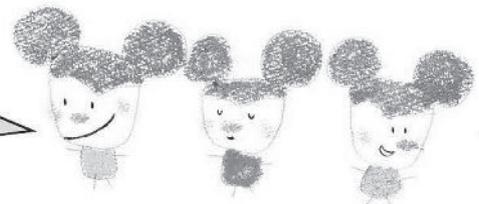
いそがず、あわてず、ゆっくりね

うまく鳴ったときの弁は、上から見ると、かなり前後に振れています。



上からみたときの弁の振れかた

この音を出すまでが、
ちょっとむずかしいかも。
何度もやっているうちに、
必ずコツがつかめてきます。
あきらめないで！



!? 鳴らない!? ここをチェック !!

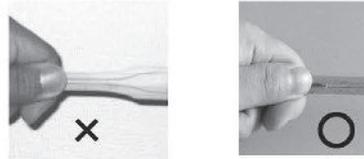


? ひもを引いたとき、ムックリがぐらぐらしませんか？

支える方の手がぐらつくと、うまく弁を振動させられません。
 最初はわきをしめて、親指に力を入れて、しっかり支えましょう。
 また、輪になっているひもが長すぎたり短すぎたりしないよう、
 あらかじめ調節しておきましょう。

? 弁までいっしょに押さえこんでいませんか？

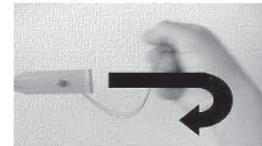
弁が動かないと、音も鳴りません。



? ひもを引くとき、力みすぎて手首が硬くなっていませんか？

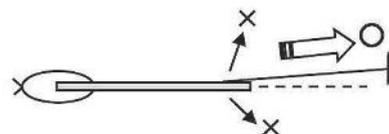
手首が硬いままだと、引ききったところで動きが止まってしまう。すると、弁の振動も止まってしまう。

ノックをするときのように、手首の動きをほんの少しだけ逆に戻すよう、意識してみましょう。



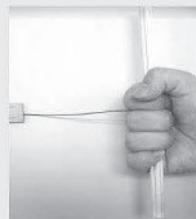
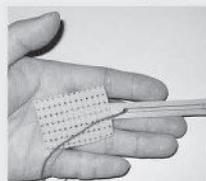
? ひもを引くとき、前や後ろにズレすぎていませんか？

真横からほんの少し前に向かって、ひもを引きましょう。



小さな手のための 練習のくふう

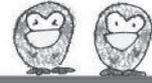
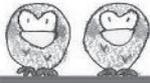
- ・ムックリを持つ部分に、すべり止めのゴムを巻く
- ・竹ひごを、割りばしの割れ目にはさみ、割りばしごと握ってから、ひもを引く など



自分なりのくふうをして、鳴らすコツをつかんでいきましょう。

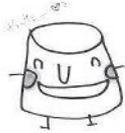
♪ れんしゅう② ♪

おと きょうめい
口の中に音を共鳴させる



めざせ！「ビヨヨヨ ~ン♪」「ホワワワ ~ン♪」

つぎは、音を口の中に響かせる練習をします。



れんしゅう
練習のため、最初は口を開けたままにして
おきます。



わ
輪になったひもをかけた手の、親指の爪を、
くちびる
唇の端につけます。その手ぜんたいを、頬に
お
押しつけるようにして、固定します。

そのまま、3ページで練習した「ブーン♪」
という音を出してみましょう。

口の中に音が響く感じがつかめたかな？



な
慣れてきたら、棒に軽く触れるていどに、
くちびる
唇をそっと閉じてみましょう。

※ 歯で噛むのではありません！

※ 振動した弁に、唇や舌がぶつからないよう、気をつけて！

口を閉じるとき、響きが変わるのがわかるかな？



さらに慣れてきたら、音色に変化をつける
くふうをしてみましょう。たとえば…

- ・口を、開けたり閉めたりする
- ・舌を、上下、前後に動かす
- ・鳴らしながら、息を吸ったり吐いたりする
- ・ひもを引く力を、強くしたり弱くしたりする
- ・好きなリズムでひもを引く



いろいろな音色に変わると
とってもたのしいよ！

小学校第4学年 総合的な学習の時間

■ 団子作りの活動を通して、アイヌ民族の文化に親しむ

本時のポイント

コンプシト（昆布のタレの団子）作りを通して、自然の恵みを余すところなく使っていたアイヌ民族の知恵や文化に親しみをもてるようにする。

本時の展開（2時間扱い）

子どもの学習活動

昔のアイヌ民族の団子作りをのぞいてみよう！

知る

手間がかかるね。 搾りかすも工夫して食べていたんだって。 特別な時にしか食べられない貴重なものだったんだ。

どうすれば、おいしいコンプシト（昆布ダレの団子）が作れるのだろう。

作る

こねて団子の形にするのがおもしろいよ。 昔は粉から作っていたんだね。

昆布を採ってきて乾かすんだね。 昔は手作業で昆布を粉にしていたんだね。

食べる

おいしかったよ。 体験できてうれしかった。

団子作りを体験して、アイヌ文化についてもっと知りたくなったよ。

課題探究的な学習を取り入れた授業を充実させるセルフチェックの視点

セルフチェック1
（興味・関心・疑問をもてる）
昔のアイヌ民族の団子の粉の作り方を写真で提示し、手間や知恵を実感し、団子作りに興味・関心をもてるようにする。

セルフチェック2
（意欲を持続させる）
昔のアイヌ民族の生活を想像して今の作り方との比較を促すことで問題意識を生む。

セルフチェック6
（学びのよさを実感）
昔のアイヌ民族の作り方を知った上で、自分たちの手で作った団子を食べることで、アイヌ文化を実感し、社会科の学習につなげる。

[領域及び生活のつながり]

アイヌ民族の食文化などについての興味・関心につなげることが可能。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

食の体験を通して、アイヌ民族の知恵や、アイヌ民族の食文化に親しんでいる。

活動準備

- ・札幌市教育委員会アイヌ教育相談員の学校派遣を活用したり、栄養教諭や保護者の協力を得たりするとよい。

団子作りのレシピ

総合的な学習の時間「アイヌの人たちの食文化」を体験しよう

だんご作りにチャレンジ！！



材料

- ・だんごの粉（白玉粉など） ・ぬるま湯
- ・水溶き白玉粉用の粉
- ・さとう、こんぶの粉（ゆでる直前に取りに来る）
- ・塩（味見後、必要な場合は取りに来る）

道具

- ・お皿2枚 ・スプーン1つ
- ・なべ（ゆでる用、たれ用一つずつ）
- ・おたま1つ ・あなじゃくし1つ
- ・茶わん、はし人数分

◆手順◆

①こねる

だんごの粉に、ぬるま湯を少しずつ（大体スプーン3杯ずつ）入れながら、**耳たぶのかたさになるまで**こねる。（ぬるま湯を入れる人、ボウルをおさえる人、こねる人を交代でやりましょう！）

②丸める

一口大に丸め、真ん中を少しくぼませてだんごを作る。できたものはお皿の上にくっつかないように並べる。
 ☆ゆでる用のなべに半分ほどの水を入れ、火にかける。
 ☆水溶き白玉粉を作る。

③ゆでる

☆なべにだんごを入れ、ゆでる。1～2こくらいうき上がってきたら、ゆで汁をたれ用なべにうつす（おたま3杯半）。

④たれ作り

☆たれ用なべにさとう、こんぶの粉を入れて、火にかける。にたったら火を止めてよくまぜた水溶き白玉粉を入れ、火にかけながらまぜる。

⑤仕上げ

うきあがってきただんごをあなじゃくしですくい、たれ用なべに入れる。たれをよ～くからめて、もりつけをする。

☆黄色の部分は、ボランティアさんにやっていただきます。よろしくお願ひします！

完成！いただきます！！

後片付けも大事な仕事。
 「来たときよりきれいに」を目指してがんばりましょう！

～昆布のタレの作り方～

- ①昆布を炙る。（電子レンジでもOK）
- ②ミキサーなどで細かく砕く。
- ③ゆで汁で溶いて味付けをする。

※昔は、火鉢の遠火で昆布を炙り、包丁やすり鉢を使って細かく砕いて作ったそうです。



昔のアイヌ民族は、穀物やイナキビやオオウバユリの根などから粉を作っていた。根を潰して、濾して、乾燥させてといった大変手間のかかる作業だが、昔は歌を歌いながら協力して行っていたところもあるそうである。また、搾りかすは乾燥させ、保存食として汁に入れて食べていた。

アイヌ教育相談員のこのような話を、子どもたちが聞いてから団子作りに取り組むと、アイヌ民族の考え方に共感しながら学習することができる。

参考文献・取材先

- ・『アイヌ生活・文化再現マニュアル「食べもの」～春から夏へ～』公益財団法人アイヌ民族文化財団

小学校第5学年 家庭科 【実施時期：2月】

■暖かく快適に過ごす住まい方（チセから学ぶ工夫）

単元のポイント

本単元は、寒い季節の衣服の着方や住まい方に関心をもち、快適に生活しようとする態度を養うことをねらいとしている。単元を通して、衣服の働きを理解し、衣服の着方を工夫したり、明るく、暖かい住まい方を理解し、実生活に生かしたりする姿を期待する。

本時では、アイヌ民族の住居「チセ」を通して、冬の寒さをしのぎ、暖かく住まう工夫を学ぶ。採光や蓄熱など、チセに施された工夫から、自分たちの生活に生かせることを考える。

題材構成（7時間扱い）

子どもの学習活動			
1	<p>○寒い季節に困ることはどのようなことか、意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒くて風邪をひきやすい ・暖房費がかかる ・しもやけになる ・空気が乾燥する ・結露してカビが生えやすい ・水道が凍結する <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">寒い季節を気持ちよく過ごすにはどのような工夫をするとよいだろう。</p>		
2 3 4 5	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: 1px dashed black; padding: 10px; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">着方の工夫</p> <p>○夏の服装と冬の服装を比較する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の色は？ ・布の厚さは？ ・衣服の形は？ ・衣服の枚数は？ <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">寒い季節を暖かく過ごすにはどのような着方をしたらよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚着をする ・重ね着をする <p>厚着の効果、重ね着の効果を確認する</p> <p>○衣服の働きを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に合った着方 ・衛生的な着方 </td> <td style="width: 50%; border: 1px dashed black; padding: 10px; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">住まい方の工夫</p> <p>○夏と冬の住まい方を比較する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓の開閉は？ ・カーテンは？ ・冷暖房は？ ・カーペットは？ <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">暖かく住まうにはどのように工夫したらよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏はフローリング、冬はカーペット ・冬は厚手のカーテンに交換する ・冬は日光を取り入れるようにする <p>○効率的で安全な暖房機器の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風の通りを考え、短時間で換気する </td> </tr> </table>	<p style="text-align: center;">着方の工夫</p> <p>○夏の服装と冬の服装を比較する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の色は？ ・布の厚さは？ ・衣服の形は？ ・衣服の枚数は？ <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">寒い季節を暖かく過ごすにはどのような着方をしたらよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚着をする ・重ね着をする <p>厚着の効果、重ね着の効果を確認する</p> <p>○衣服の働きを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に合った着方 ・衛生的な着方 	<p style="text-align: center;">住まい方の工夫</p> <p>○夏と冬の住まい方を比較する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓の開閉は？ ・カーテンは？ ・冷暖房は？ ・カーペットは？ <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">暖かく住まうにはどのように工夫したらよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏はフローリング、冬はカーペット ・冬は厚手のカーテンに交換する ・冬は日光を取り入れるようにする <p>○効率的で安全な暖房機器の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風の通りを考え、短時間で換気する
<p style="text-align: center;">着方の工夫</p> <p>○夏の服装と冬の服装を比較する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の色は？ ・布の厚さは？ ・衣服の形は？ ・衣服の枚数は？ <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">寒い季節を暖かく過ごすにはどのような着方をしたらよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚着をする ・重ね着をする <p>厚着の効果、重ね着の効果を確認する</p> <p>○衣服の働きを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に合った着方 ・衛生的な着方 	<p style="text-align: center;">住まい方の工夫</p> <p>○夏と冬の住まい方を比較する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓の開閉は？ ・カーテンは？ ・冷暖房は？ ・カーペットは？ <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">暖かく住まうにはどのように工夫したらよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏はフローリング、冬はカーペット ・冬は厚手のカーテンに交換する ・冬は日光を取り入れるようにする <p>○効率的で安全な暖房機器の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風の通りを考え、短時間で換気する 		
6 (本時)	<p>○昔のアイヌ民族の住居「チセ」から暖かく住まう工夫を学ぶ</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・すきま風が入り込まないように屋根やかべをしっかりと結ぶ ・東側に一つ、南側に二つ窓をつくり採光する ・屋根に積もった厚い雪を蓄熱に活用する ・地熱を生かし暖かさを保つ ・炉にまきを少しずつつくべ、保温効果を高める 		
7	<p>○寒い季節の着方の工夫と住まい方の工夫についてまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめたものをもとに、今の自分の生活に生かせることを考える ・さらにできそうな工夫について考える <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">保温効果を高めたり、冷たい風を防いだりして、着方、住まい方を工夫する。</p>		

本時の目標

寒い季節を暖かく住まう工夫について、アイヌ民族の住居「チセ」の構造や住まい方に着目してその工夫を理解するとともに、自分たちの生活に生かせることを考え、表現することができるようにする。

本時の展開 (6 / 7)

子どもの学習活動

○昔のアイヌ民族の住居「チセ」から暖かく住まう工夫を学ぶ



札幌市ホームページより

- ・木や草を使った家だから冬は寒そう
- ・雪でつぶれそうだけど大丈夫かな
- ・暖房はどうしていたのかな
- ・暖かく住まう工夫をしていたのかな

暖かく住まうために、「チセ」にはどのような工夫があるのだろう。

- ・すきま風が入り込まないように屋根やかべをしっかりと結ぶ
 - ・東側に一つ、南側に二つ窓をつくり採光する
- 住居の構造



北海道新聞提供
(2007年6月5日夕刊)

- ・屋根に積もった厚い雪を蓄熱に活用する
 - ・地熱を生かし暖かさを保つ
 - ・炉にまきを少しずつくべ、保温効果を高める
- 住まい方の工夫

- ・太陽の光や熱を上手に取り入れていた
- ・冷たい空気を入れず、暖かい空気を逃がさない

○自分たちの生活に生かせることを考える

- ・電気や機械に頼りすぎず、自然の力を生かした工夫をしてみたい
- ・自宅の風の通り道を早速調べてみたい

自然の力を最大限に生かすような工夫がされている。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

採光や地熱を生かした住まいの工夫に気付き、自然の力を最大限に生かしていたアイヌ民族の知恵に共感する姿。

課題探究的な学習を取り入れた授業を充実させるセルフチェックの視点

セルフチェック1 (興味・関心・疑問をもてる)

チセとの出会い

一見すると、寒そう、雪で壊れそう、今のような暖房設備はないなど、マイナス面に目が行くと思われる。写真をじっくりと見ることで、暖かく住まうためにどうしていたかという疑問をもつようにする。

セルフチェック5 (多面的・多角的に考察) 新聞記事をもとに追究

大きく「住居の構造」の面、「住まい方の工夫」の面から子どもの気付きを分類し、多面的な考察につなげる。採光のこと、自然環境を生かすことなど、単元で大事な要素を知識として獲得できるようにする。

[領域及び生活のつながり]

電気や機械に頼っている現代の生活と、自然の力を最大限に生かしていたアイヌ民族の生活を比較することで、自然の光や風、熱を生かそうとする態度を養う。

板書例

チセ（アイヌ民族の昔の住居）



北海道新聞提供

暖かく住むために、「チセ」にはどのような工夫があるのだろうか？

- ・すきま風が入り込まないようにしっかり結ぶ
- ・東側に一つ、南側に二つ窓をつくり採光する

住居の構造



- ・屋根に積もった厚い雪を蓄熱に活用する
- ・地熱を生かし暖かさを保つ
- ・炉にまきを少しづつつくべ、保温効果を高める

住まい方の工夫

自然の力を最大限に生かすような工夫がされている。

中心資料となるので、写真を拡大掲示するだけでなく、一人一人に印刷して配るとよい。記事の内容も丁寧に読ませたい。

いずれかの方法で提示する

- ① 拡大掲示。
- ② 書画カメラ等で表示。
- ③ 児童に印刷して配布。

大きく「住居の構造」の面、「住まい方の工夫」の面から子どもの気付きを分類し、板書するとよい。

資料



北海道新聞 2007年6月5日（夕刊）に掲載された記事を活用する。



チセの内部（サッポロピリカコタン）



当時のアイヌ民族の知恵が現代にも生かされていることに気付くようにしたい。

「炉の火」と「地熱」を上手に応用することで、冬も暖かな住空間をつくっていたアイヌの人々の知恵に気付くようにしたい。

この記事の他にも、北海道新聞 2008年6月26日（朝刊）の記事「チセ～アイヌ民族の伝統住宅」も参考になる。

授業で活用する記事については、図書館等で縮刷版を印刷したり、「北海道新聞データベース」を活用したりするとよい。

北海道新聞提供

参考文献・取材先

- ・『アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－』公益財団法人アイヌ民族文化財団
- ・札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」

サッポロピリカコタンでじっくり調べよう！

サッポロピリカコタンにあるチセを活用し、体験的に学習することができます。

※第3章 P100 参照



火を焚くことによる地熱の上昇と、壁や屋根を葺くヨシやササが作る空気の層によって、チセは外観から想像する以上に暖かく、一家団欒の場であった。



小学校第6学年 社会科 【実施時期：4月】

■わたしたちのくらしと日本国憲法

～アイヌ施策推進法から見る基本的人権の尊重～

単元のポイント

本単元は、日本国憲法の基本的な考え方と、国の政治や国民生活との関わりについて理解することが大切である。日本国憲法の三本の柱である「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」のうち、「基本的人権の尊重」にあたる学習を「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（以下アイヌ施策推進法）を通して考える。アイヌ施策推進法で認められた権利を通して、アイヌ民族の基本的人権が保障されているのか、これまでの学習を踏まえて考え、国民としてどう捉え、これからの政治にどう参画していくか選択・判断する学習となる。

単元構成（6時間扱い）

子どもの学習活動	
1	誰もが楽しめる公園とはどのような公園だろう。
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">障がいや年齢に関係なく楽しめる</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">性別や国籍に関係なく楽しめる</div> </div>
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ユニバーサルデザインを意識した公園は誰でも楽しめるね。</div> <p>日本国憲法の考えのもと、誰もが安心して、幸せに感じる生活を目指しているよ。 日本国憲法には三つの原則があるね。①国民主権 ②基本的人権の尊重 ③平和主義</p>
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">私たちの豊かなくらしを実現するために、 日本国憲法はどのような働きをしているのだろう。</div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">国民主権の考えは、 市や国の政治にどのように 反映されているのかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">基本的人権の尊重の考えは、 アイヌ施策推進法にどのように 反映されているのかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">平和主義の考えは、 市や国の政治にどのように 反映されているのかな。</div> </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">国民の意見や考えが反映 されるように、政治の 仕組みを整えているんだね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">基本的人権の考えが反映 されるように、政治の 仕組みを整えているんだね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">平和主義の考えが反映 されるように、政治の 仕組みを整えているんだね。</div> </div>
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学習問題について調べてきたことをレポートにまとめよう。</div>
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">私たちが豊かなくらしを実現するために、憲法は大きな働きをしているね。</div>

本時の目標

基本的人権の尊重の考えが国民の暮らしにどのように影響しているかを理解し、アイヌ施策推進法と基本的人権の尊重の考えとの関わりについて、資料をもとに適切に考え、表現することができる。

本時の展開（4／6）

子どもの学習活動

○基本的人権の尊重について調べてみよう。

- ・男女の平等 ・裁判を受ける権利 ・居住の自由 ・言論の自由
- ・三大義務（教育・就労・納税等）

○アイヌ施策推進法に関わる資料の提示

基本的人権の尊重の考えは、アイヌ施策推進法に
どのように反映されているのだろう。

基本的人権の尊重

- ・様々な人々の権利を保障しようとしているね。
- ・民族・国籍・性別などに関わらず、人権を保障しようとするのは大切なことだね。
- ・お互いを尊重し合いながら生活していくことが大切だね。

アイヌ民族の人権の保障

- ・鮭を獲る文化、樹木を採取し活用する文化の保護は、アイヌ民族の文化を守ろうとしているよ。
- ・アイヌ民族の文化を尊重することは、個人の尊重の考えが反映しているのかな。
- ・「先住民族」と位置付けることはアイヌ民族の人権を尊重しようとしているね。

○アイヌ民族の中には、この法律に対する不安もある。

- ・アイヌ民族の集団としての権利について触れられていない。
- ・文化の保障という意味合いが強く、生活の保障について触れられていない。

アイヌ民族の人権をどう保障していくことが基本的人権の尊重となるのか、考えていく必要があるね。

課題探究的な学習を取り入れた授業を
充実させる
セルフチェックの視点

セルフチェック1
(興味・関心・疑問をもてる)

基本的人権とはどのようなものか教科書や資料集を活用し調べた上で、アイヌ施策推進法の内容を提示し、問いを生む。

セルフチェック5
(多面的・多角的に考察)

アイヌ施策推進法が、アイヌ民族をはじめとする国民にとってどのような影響を与えているのかについて考えられるよう黒板に位置付けていく。

また、アイヌ施策推進法に対する懸念も提示し、政治への関心を高められるようにする。

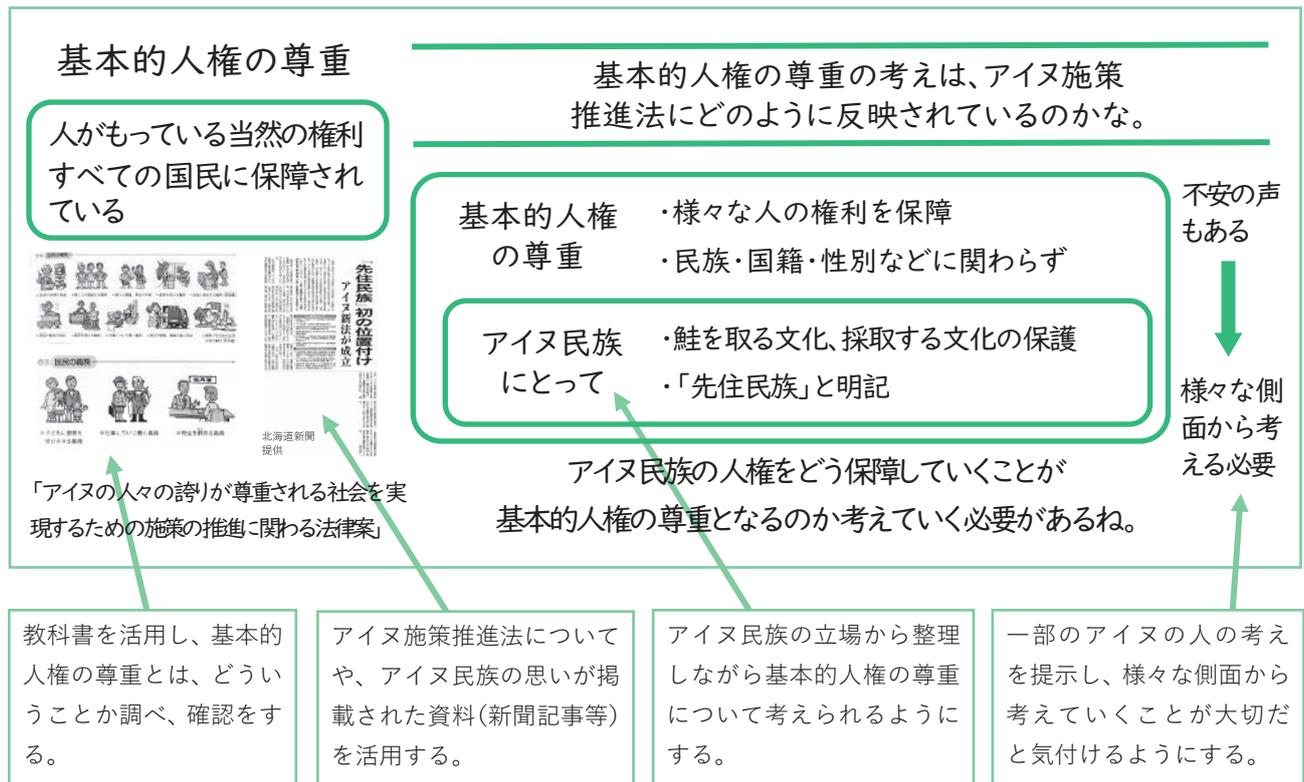
[領域及び生活のつながり]

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

資料をもとに、アイヌ施策推進法に個人の尊重や文化の保護など基本的人権の尊重の考えが反映されていることについて考えることができる。また、政治に対する関心を高めている。

中学校公民的分野
C「私たちと政治」との学習内容の接続が可能

板書例



アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律

平成 31 年法律第 16 号 第 198 回通常国会 令和元年 5 月 24 日から施行

- 第一章 総則（第一条—第六条）
- 第二章 基本方針等（第七条・第八条）
- 第三章 民族共生象徴空間構成施設の管理に関する措置（第九条）
- 第四章 アイヌ施策推進地域計画の認定等（第十条—第十四条）
- 第五章 認定アイヌ施策推進地域計画に基づく事業に対する特別の措置（第十五条—第十九条）
- 第六章 指定法人（第二十条—第三十一条）
- 第七章 アイヌ政策推進本部（第三十二条—第四十一条）
- 第八章 雑則（第四十二条—第四十五条）
- 附則

【法律全文】

<http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/ainu/index.html>

【附帯決議全文】

(衆議院)

http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Futai/kokudo245982A15732D564492583D900032AC6.htm

(参議院)

http://www.sangiin.go.jp/japanese/gianjoho/ketsugi/198/f072_041801.pdf

※第 1 章 P25～34 参照

中学校第2学年 社会科 【実施時期：2月】

■北海道の「開拓」とアイヌ民族

単元のポイント

欧米諸国と対等の立場に立ちたい明治新政府は、ロシアに対する北方の防備、豊富な資源を手に入れることを目的として北海道の本格的な統治と開拓を進めた。政府の勧めで北海道に移民した人々は、厳しい自然環境を克服し、想像を絶する苦労の末、開拓地を広げていく。しかし、植民者が開拓した土地は、アイヌ民族が生活していた空間であり、和人中心社会の建設が進められる中で狩りや漁の場が奪われていく。北海道旧土人保護法は、「保護」という名目で、アイヌ民族の農耕民化と和人への同化を強いる法律であった。明治政府の立場だけではなく、移民した和人やアイヌ民族の立場から北海道の「開拓」を捉え、法により尊厳が奪われたアイヌ民族の歴史について理解を深めたい。

単元構成（5時間扱い）

子どもの学習活動	
	明治政府はどのような外交と国内整備を進め、近代国家を形成していったのだろう。
1	新たな外交と国境の画定 <ul style="list-style-type: none"> ・岩倉使節団の目的は何か。自分が岩倉使節団の一員なら、どの国を最も参考にするだろう。 ・なぜ日本は欧米とアジアで異なる外交をしたのだろう。 ・当時、なぜ国境を画定する必要があったのだろう。
2	北海道と近代化の波 <ul style="list-style-type: none"> ・北海道の人口が急激に増えたのはなぜだろう。 ・自分が北海道への移住を希望するなら、どの場所を希望するだろう。 ・なぜ北海道に移住と開拓が進められたのだろう。
3 本 時	生活を変えられたアイヌ民族 <ul style="list-style-type: none"> ・資料からアイヌ民族の生き方や考え方について分かることは何だろう。 ・アイヌ民族の生活はなぜ苦しくなったのだろう。 ・北海道旧土人保護法の成立をアイヌ民族はどう思っただろう。
4	自由と民権を求めて <ul style="list-style-type: none"> ・当時の政府の中心人物の出身藩について考えよう。 ・政府を去った二人はどんな方法で藩閥政治を変えようとしたのだろう。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・自由と民権を獲得するために、どのような動きがあったのだろう。 大日本帝国憲法の成果と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法と民権派が作成した憲法案を比べよう。 ・大日本帝国憲法の制定を人々はどのように受け止めたのだろう。 ・現在の国の仕組みや選挙との違いは何だろう。
	新政府は欧米諸国に使節団を派遣するとともに、国内では急速な近代化を進めていった。 また、自由で平等な社会を求める運動が起こり、憲法や国会などが整えられた。

本時の目標

北海道旧土人保護法の内容について、アイヌ民族の立場から考え、表現することを通して、北海道の「開拓」がアイヌ民族の生活にどのような影響を与えたかを理解できるようにするとともに、アイヌ民族の生き方や考え方について、主体的に問題解決しようとする態度を養う。

本時の展開 (3 / 5)

子どもの学習活動
<p>○これまでの学習から、アイヌ民族の歴史や文化についての学習を思い起こす。</p> <p>○晩成社の渡部勝さんの日記から、アイヌ民族が食料不足から飢饉に苦しんでいる様子に気付く。</p>
<p>なぜアイヌ民族の生活が苦しくなったのだろう。</p>
<p>○明治政府が一方向的にアイヌ民族の土地を奪ったり、サケ漁やシカ猟を禁止したりした経緯を、資料等で確認する。</p> <p>○明治時代の開拓地域の広がりについて地図で確認し、移住を決断した人々の大変な苦勞により開拓された土地であることを思い起こす。</p> <p>○一方で、和人の植民者が増えて和人中心社会の建設が進むと、アイヌ民族の生活がどう変えられていくかを資料から考える。</p> <p>○北海道旧土人保護法が制定された経緯や内容を確認する。</p>
<p>北海道旧土人保護法の内容をアイヌ民族はどう思っただろうか。</p>
<p>○次の視点からアイヌ民族の立場で考え、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた「土地」はそもそも誰のものか。 ・アイヌ民族は「土地」を与えられることを望んでいたのか。 ・売買できない「土地」をもたせることの意味は何か。 ・学校で教えられる内容は、アイヌ民族が望んでいたことなのか。 ・この法律によりアイヌ民族の言葉や慣習などの文化はどうなるか。
<p>入植者が増加して「開拓」が進むと、狩猟を生業とするアイヌ民族の生活の場は奪われていく。北海道旧土人保護法は、アイヌ民族の生活や民族独自の文化を和人中心の「法」によって奪っていった。</p>

課題探究的な学習を取り入れた授業を充実させるセルフチェックの視点

セルフチェック 1 (興味・関心・疑問をもてる)

前時で北海道への移住を決めた家族の模擬体験を行っている。明治政府の勧めで和人の移住者側が行った「開拓」が、結果としてアイヌ民族の生活を圧迫していたことに気付くようにする。

セルフチェック 5 (多面的・多角的に考察)

一見するとアイヌ民族を「保護」し、救済する法律に見えるが、アイヌ民族の立場で考えると、民族としての自由が奪われ、同化を強制される法律であることに気付かせる。また、和人との差が現在に続く差別へとつながっていくことに気付くようにする。

[領域及び生活のつながり]

アイヌ民族の文化尊重の意識を育てるとともに、北海道の「歴史」を知り、その責任を負った上で先住民族の権利実現を推進していく意識を育てる。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

北海道の「開拓」が進められた理由とその影響について、明治政府の立場だけではなく、移住した和人の立場やアイヌ民族の立場から、多面的・多角的に捉えることができる。

板書例

3 生活を変えられたアイヌ民族

増える入植者 内陸部まで進む「開拓」

① なぜアイヌ民族の生活が苦しくなったのだろう。

勝手に和人の土地として、入植者を募集
先住民であるアイヌ民族との交渉はなし

狩猟を生業、自然は神

→開拓により、アイヌ民族の生活圏×

さらに法と乱獲でアイヌ民族の生活を圧迫

② 北海道旧土人保護法をアイヌ民族はどう思っただろうか。

- ・与えられた「土地」はそもそも奪われたもの
- ・アイヌ民族は狩猟民族、農業には向かない
- ・売買できない土地は、移住の自由を奪う
- ・学校では日本語と日本の文化を強制されるだけ

→ アイヌ民族の生活や民族独自の文化×

・和人とは別の集落、学校 → 差別を助長

入植者の増加や和人中心の「開拓」がアイヌ民族の生活にどのような影響を与えているか、まとめる。

北海道旧土人保護法は、和人が一方向的に決めた同化政策であり、アイヌ民族は歓迎しなかった理由を具体的に示す。

資料

『語り継ぐ女の歴史』斜里女性史をつくる会発行 昭和20年代

「開墾は、それはもう厳しいものでした。木の根があり、石があり、支給された鍬は、すぐ歯がボロボロになり何の役にも立ちません。まず木を切り倒し、薪にして売りに出します。その後、根を掘り起こし、大きな根は火薬抜根でおこしていきます。樹齢100年以上と思われる桂の木や、檜の木が何のためらいもなく次々と薪にされていったのです。やっとの思いで拓いた土地に、麦、トウキビ、イナキビ等を植えましたが、斜里岳下ろしの強風にあおられ、なかなか収入には結びつきません。(中略) お風呂は下駄をはいて入るドラム缶、外には、熊、きつね、たぬき、へび等がこちらの動きを伺っています。(中略) 卵を得るために飼ったニワトリは寒さのため卵を生まず、肉を得ようと飼った豚は、食糧不足のため太らず、(中略) 1間しかない掘っ立て小屋は、真ん中に炉が切っており、薪を燃やして暖をとり、夜はおき火に灰をかけ、四方から足を入れ炬燵にして休みます。朝起きると、布団の衿が凍っていたり、ふぶきの日には、布団の上にも雪が白く積もってしまいます。もう少しましな家が欲しい、と皆さんに手伝ってもらい、柱を建て終わったところで、強風のため吹き飛ばされてしまったのです。この時に、開墾をあきらめ山を下りる決心をしました。」

資料 北海道旧土人保護法（一部抜粋）

第一條 北海道舊土人ニシテ農業ニ従事スル者又ハ従事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一萬五千坪以内ヲ限り無償下付スルコトヲ得

第四條 北海道舊土人ニシテ貧困ナル者ニハ農具及種子ヲ給スルコトヲ得

第六條 北海道舊土人ニシテ疾病、不具、老衰又ハ幼少ノ爲自活スルコト能ハサル者ハ従来ノ成規ニ依リ救助スル（後略）

第九條 北海道舊土人ノ部落ヲ爲シタル場所ニハ國庫ノ費用ヲ以テ小學校ヲ設クルコトヲ得

※授業では、本資料の口語訳を作成し、和人との土地の大きさや就学年数の違いについて補足説明した。

ワークシート（例）

2 北海道と近代化の波（2時間目）

- (1) 北海道の人口が、1883年から1903年の20年間で約4倍に増えているのはなぜだろう。

西 暦	1883 年	1893 年	1903 年
人 口	252,952	559,959	1,077,280

参考『アイヌの歴史 北海道の人びと(2)』榎森進 三省堂（1987）

- (2) 自分なら、北海道のどこを移住希望地として選ぶか考えよう。

<p>移住希望地 No. 地名 _____</p> <p><input type="checkbox"/> 希望した理由</p> <p><input type="checkbox"/> 期待する生活</p> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">※明治政府が発行した移住の手引書である『第二北海道移住手引草』北海道庁殖民部拓殖課編（1901 復刻版）にある23の居住希望地のうち、6か所程度を提示する。</p>	<p>場所を比較する時に 参考にする視点</p> <p>面積 人口 気温 耕地面積 農産物生産量 水産物生産量 周辺の主な建物 交通 等</p>
---	---

- (3) 明治新政府が積極的に北海道に移民（植民）を進めたのはなぜだろう。

- (4) 授業を振り返って、気付いたことや考えたことをまとめよう。

3 生活を変えられたアイヌ民族(3時間目・本時)

(1) 晩成社 渡辺勝さんの1884年のある日の日記から気付くことはどのようなことだろう。

(2) なぜアイヌ民族の生活が苦しくなったのだろう。

(3) 1899年に「北海道旧土人保護法」という法律が和人により制定された。この法律をアイヌ民族はどう思っただろうか。アイヌ民族の立場で考えてみよう。

(4) 授業を振り返って、気付いたことや考えたことをまとめよう。

参考文献・取材先

- ・『アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－』公益財団法人アイヌ民族文化財団
- ・平井敦子「「よし北海道に移住するぞ」と決断した模擬家族」(『歴史地理教育』2017年4月号)
- ・榎森進(1987)『アイヌの歴史 北海道の人びと(2)』三省堂
- ・桑原真人・川上淳(2009)『北海道の歴史がわかる本』亜璃西社
- ・『第二北海道移住手引草』北海道庁殖民部拓殖課編(1901年復刻版)

中学校第2学年 社会科 【実施時期：9月】

■交易からアイヌ民族の生活の変容を捉える



単元のポイント

閉鎖的な近代日本において、北方諸民族を介しながら近隣諸国との文化交流を果たしたアイヌ民族。そのアイヌ民族の役割や暮らしに対する関心を高め、幕府の外交政策が蝦夷地に対してどのように行われたのかを背景に考えていく。和人の目を魅了した「蝦夷錦」（山丹服）。アイヌ民族独自の交易により日本へもたらされていた貴重品が政治取引に使われていった。国内の交易方法の変容だけにとどまらず、アムール・樺太地域の支配の変化など、様々な時代のうねりに流され、アイヌ民族の伝統的な生活が喪失し変容していく過渡期として、この時代のアイヌ民族の生活を捉えるようにしたい。また、これをもとに今に残るアイヌ民族の文化を尊重する思いを育みたい。

単元構成（5時間扱い）

子どもの学習活動	
1 幕藩体制の 始まり	<p>江戸幕府は大名や朝廷を統制するためにどのような仕組みをつくったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強力な軍隊、財力を背景に諸大名を押さえていく。 ・諸法度による厳しい統制。 ・全国に諸大名を計画的に配置する。
2 朱印船貿易 から 貿易統制へ	<p>江戸幕府の外交・貿易政策は、国内政策との関係で、どのように変化したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の布教から禁止までの流れをつかむ。 ・キリスト教布教と貿易統制との関連性。
3 四つに しぼられた 貿易の窓口	<p>幕府は四つの窓口を通して世界とどのようにつながっていたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オランダと清、朝鮮への窓口の場所と貿易などの関係を理解する。 ・オランダが貿易対象国となった理由を、キリスト教の禁止の面から考察。
4（本時） アイヌ民族 の生活の 変容	<p>交易の変容はアイヌ民族の生活にどのような変化があったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内政策や諸地域の情勢によるアイヌ民族の生活の変容。 ・その後のアイヌ民族の生活を考察。

本時の目標

諸地域の歴史や日本国内の政策により、アイヌ民族の生活がどのように変容したのかを考察し、表現することができるようにする。

本時の展開 (2 / 2)

子どもの学習活動

- ・「蝦夷錦」についての話題を挙げる
- ・中世のアイヌ民族の生活様式、交易の様子を確認する

交易活動の変化①『和人による支配強化』

- ・1456年コシヤマインの戦い

江戸時代になると、アイヌ民族の生活は
どのように変化したのだろうか。

(1) 国内政策・・・場所請負制の理解

- ① 松前藩としての考え ・双方の思いを基にアイヌ民族の
- ② アイヌ民族の考え 立場について考察させる。

交易活動の変化②『喪失するアイヌ民族の伝統生活』

- ・1669年シャクシャインの戦い
- ～交換比率の変動
- ・1789年クナシリ・メナシの戦い
- ・1792年ラクスマンの根室来港

(2) アイヌ民族の生活の変容をまとめる

- ① 伝統的な生活はどうなったか。
- ② どんな暮らしになったのであろうか。

現代における、アイヌ民族について考える。

(3) 明治の頃のエピソードを紹介

**課題探究的な学習を
取り入れた授業を
充実させる
セルフチェックの視点**

**セルフチェック 1
(興味・関心・疑問をもてる)**

モンゴルの樺太侵攻、蝦夷錦についての話題を提供する。以上の既習事項との関連をもつことができるようにすることで意欲的な学習として導入することができる。

アイヌ民族の生活圏として北海道の他、樺太や千島などで生活していたことも注目させたい。また、新聞記事などを利用して、アイヌ民族の伝統生活との対比も導入としても利用できる。

**セルフチェック 5
(多面的・多角的に考察)**

幕府側(松前藩)としての考えとアイヌ民族の考えを対比し、結果を想定する。そこでは日本周辺諸国の情勢変化をおさえながら考察することで、日本のみならず、世界規模で多角的な歴史観を捉えることができる。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

アイヌ民族の伝統的な生活や文化がどのようなものであったか、理解し、想像できるようになる。

アイヌ民族の伝統的な生活が崩れていった要因として、幕府の政策、北海道の地理的条件、世界情勢などが深く関わっていることを理解し、多面的・多角的に考察する。

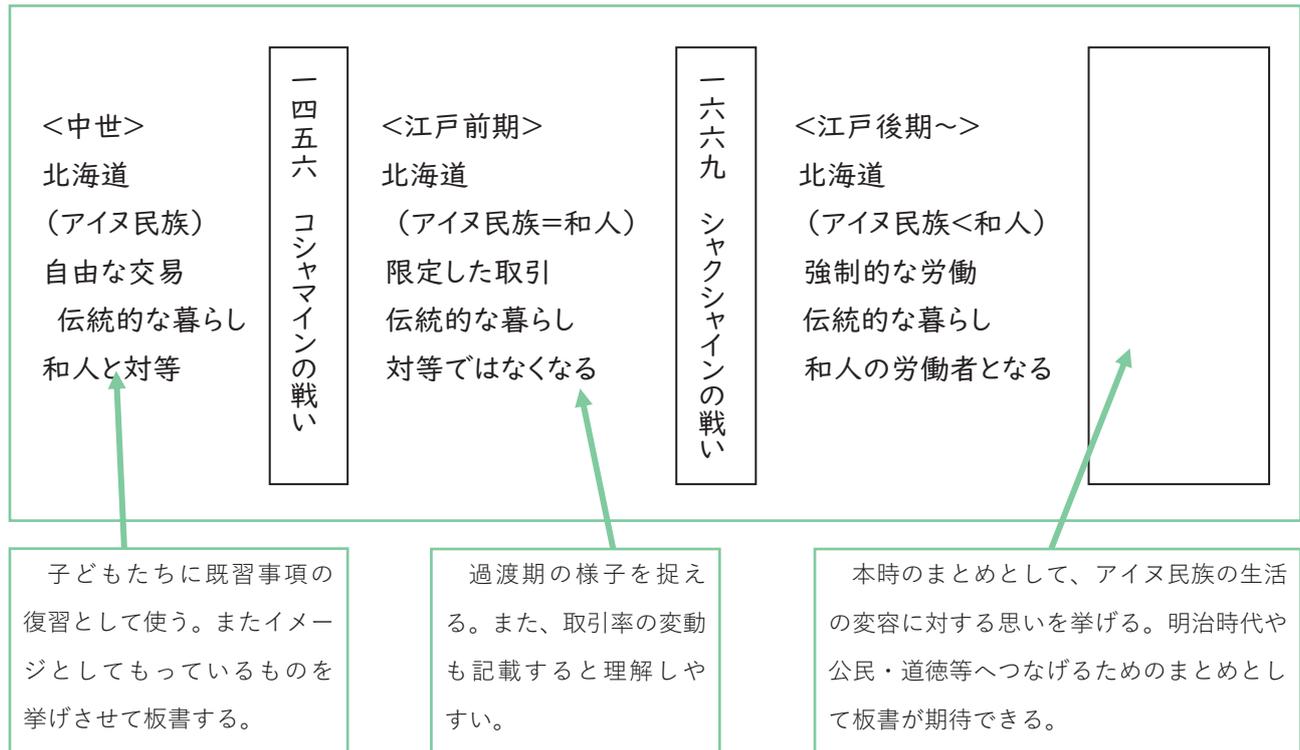
身近な地域の歴史を自分なりに解釈し判断しながら、それらを背景によりよい社会を構築していこうとする態度を身に付ける。

[領域及び生活のつながり]

アイヌ民族に対する人権について問い、道徳的な心情も培う。(道徳)

現代社会におけるアイヌ民族に対する諸問題を、効率と公正に基づいて考察する力を育む(公民)

板書例



資料

○国内政策について

「商場知行制度」家臣にアイヌ民族との交易の場である商場を与え、管理し、税を取ったり交易など行ったりして給料を得る。後に「場所請負制度」家臣たちは商場の管理の一切を有力商人に預け、有力商人たちから税を取る。

○交換について

アイヌ民族：干サケ（からさけ）・熊皮・鹿皮・鶴・鯨・魚油・鯨（にしん）・串貝（くしがい）
・あざらし・ラッコ皮・昆布など

幕府：米・酒・麴（こうじ）・塩・たばこ・鉄類・衣料・漆器類・装身具

○交易状況について

北海道東部、天塩地方までのアイヌ民族の船が、東部からだけでも100隻以上、干鮭や鯨、ラッコ皮や絹織物を松前へ。またラッコ皮は千島列島方面、絹織物はサハリン・アムール川流域方面との交易ルートによるもの。

○シャクシャインの戦い（1669年）について

「干鮭五束=米一俵（二斗入り）」という交換基準は長く守られていたが、この頃になって米一俵を7～8升に減ずるといふ米の値上げを一方的に行なっている。アワビの引渡しが一束でも不足すると、子どもを質に取るなどと脅す。和人の大網による鮭漁に抗議すると、乱暴に打ちたたかれたなど、様々な不満が知られていた。

○クナシリ・メナシの戦い（1789年）について

飛騨屋は1788年（天明八）にはメナシ（現在の根室支庁管内標津〔しべつ〕町付近）やクナシリ島で、大網によって鱒（ます）を捕獲し、この鱒からメ粕（しめかす）を生産するようになった。メ粕は本州の商品作物の肥料となるものであって、豊富な鱒によってそれまでの交易以上の利益を上げることが可能であった。現地のアイヌ民族を労働力として使役させるために、暴力や虐待などによって強制徴収した。

○交換比率について

和人とアイヌの人たちとの交易の交換比率の変化

1641年ころ	アイヌの干サケ ^{から} 100匹と和人の米	約28kg
1669年ころ	アイヌの干サケ 100匹と和人の米	約11kg
1688年ころ	アイヌの生サケ 100匹と和人の米	約18kg

『アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－』より

○導入で使える資料



アイヌの首長が種々の土産を船に積んで松前の城下に行き丸小屋を作ってそこに荷物を陸揚して泊る。松前家ではこれを知ると、通詞を出して迎えさせ、首長以下は礼装し、貴人を訪れる時にするように互に手をつなぎ、一列になって、通詞に導かれ藩主の前に出る。

（高倉新一郎『蝦夷地』至文堂）



オムシャ もともと旧知の人に再会した際の贈答挨拶のことでしたが、しだいに和人が定めた決め事をアイヌの人たちに読み聞かせ、酒やタバコ、米などを与える政治的儀礼となりました。建物の中にいるのは和人のアイヌ語通訳で、建物の前に座っているのはアイヌの長老たちです。儀式のあとには、酒宴が行われました。

（北海道博物館展示）

参考文献・取材先

- ・『アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－』公益財団法人アイヌ民族文化財団
- ・『日本差別史関係資料集成 第8巻』（近世資料篇3：アイヌ研究1）
- ・榎本守恵 君尹彦『北海道の歴史』山川出版社
- ・チースリク編・岡本良知訳『北方探検記』吉川弘文館
- ・谷本晃久『近世の蝦夷』一岩波講座『日本歴史』
- ・川上淳『日露関係のなかのアイヌ』－日本の時代史19
- ・奥山亮『補稿アイヌ衰亡史』みやま書房
- ・北海道博物館
- ・北方民族博物館

ワークシート例

<p>伝統的なアイヌ民族の暮らし</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	<p>既習事項の振り返りとして、伝統的なアイヌ民族の暮らしを確認する。 【セルフチェック1の活用欄】</p>
<p>アイヌ民族の暮らしの変化</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	<p>導入の際に使った資料から読み取ることができる変化について書く。 ※自由記載 【セルフチェック1の活用欄】</p>
<p>生活の変化となるきっかけ</p> <div style="border: 1px dashed black; height: 40px; width: 100%;"></div>	<p>幕府側の北方対策や、ロシア帝国の東方侵出、北方少数民族の衰退など、様々な情勢が関係していることに注目する。 【セルフチェック5の活用欄】</p>
<p>授業の振り返り～これからのアイヌ民族</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	

伝統的な生活が失われた過程を理解し、現代社会においてアイヌ民族を自分事として捉え、これからの共生・共存、多様性を認め、差別のない社会を構築・参画していくための心を養う欄として活用していく。

まとめに使えるトピック～和平を求める姿へ変わるシャクシャイン像～



【旧】1970年設置 → 【新】2018年設置

英雄シャクシャインしのび法要祭 新ひだか

(北海道新聞電子版 2017年9月25日)

アイヌ民族の英雄、シャクシャインをしのぶ法要祭が9月23日、日高管内新ひだか町静内真歌の真歌公園で行われた。アイヌ民族ら関係者約千人が参加し、祭壇の前で祈りをささげた。新ひだかアイヌ協会などでつくる実行委主催で71回目。命日の1カ月前の秋分の日に毎年催され、この日は公園内のシャクシャイン像前で、カムイノミ(神への祈り)が行われた。像の老朽化が進み、来年にもブロンズ像へ建て替えることも示唆した。シャクシャインは、1669年(寛文9年)、不平等な交易を強いた松前藩に抵抗して戦いに挑んだ。(北海道新聞提供)

授業を深める

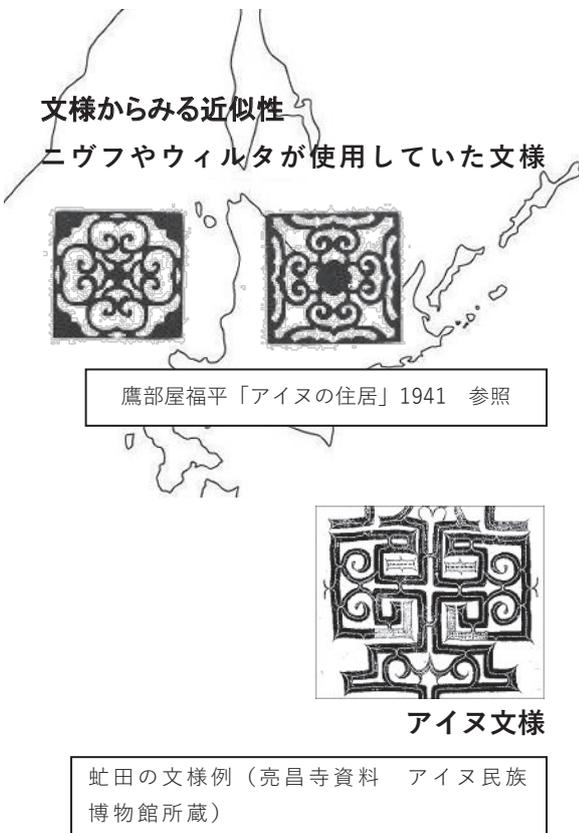
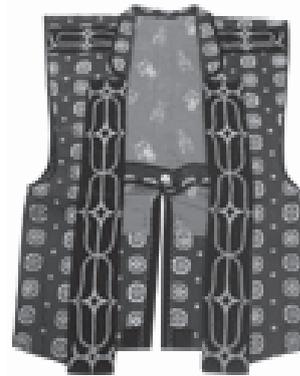


『夷酋列像』（いしゅうれつぞう）で描かれているアイヌ民族の有力者たちは蝦夷錦を着させられ描かれた。

「蝦夷錦」を伝える資料として、蠣崎波響が描いた『夷酋列像』（いしゅうれつぞう）に掲載されたイトコイ（乙箇吐壹）などの肖像画を使用する場合がある。これは松前藩がクナシリ・メナシの戦いのときに味方したアイヌ民族を屈強な異民族として伝え、自分たちの奮戦ぶりを伝えるために描かせたものである。

蝦夷錦は清から日本へ伝わり、日本の陣羽織はアイヌ民族が使用した。

アイヌ民族が行った交易品の中に「陣羽織」がある。当時の戦で使用された「陣羽織」（じんばおり）が、「チンパオリ」（統率するものが使用する）としてアイヌ民族の文化にとけ込み、息づいている。



アイヌ民族も様々、大陸には他の少数民族の存在。北方では盛んに交流が行われていた。

アイヌ民族は地域によって文化や集団意識が異なり、千島アイヌ、樺太アイヌ、北海道アイヌと大きく分かれ、北海道アイヌの中でも太平洋岸東部は「メナシクル」、太平洋岸西部は「シムクル」などとし、千島アイヌは「クルムセ」もしくは「ルートムシクル」などと呼ばれた。海を渡り大陸では、ニヴフ、ウイльтаなどの少数民族がおり、鷹部屋福平の「アイヌ服飾文様の研究」（1942）では、文様の地域的特性や構成法、近代に入ってからへの応用、ウイльта・ニヴフ文様からの影響にも言及しているようで、文様からお互いの交流の親密さを想像することができる。

中学校第3学年 社会科公民的分野 【実施時期：9月】

■平等権－共生社会を目指して

単元のポイント

人権侵害を克服しようとする長年にわたる活動の結果、アイヌ民族の尊厳を守るための法整備が少しずつ進んできた。先住民族に対する国際連合宣言を背景に、令和元年には「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（以下アイヌ施策推進法）が制定された。この法律では、法律として初めてアイヌ民族を「先住民族」として位置付けるとともに、アイヌ民族への差別や権利侵害の禁止が盛り込まれている。

日本国憲法が保障する個人の尊厳の視点からアイヌ民族の歴史を知るとともに、今を生きるアイヌ民族はどのような願いをもっているのかを考える授業としたい。

単元構成（7時間扱い）

時	学習内容・活動等
	個人の人権を尊重し、共生社会を築いていくためにはどうすればよいのだろう。
1	1 基本的人権と個人の尊重 ・基本的人権の尊重とはどのようなことか、具体的な事例を通して考え、自らの意見をもつとともに、意欲的に話し合うことができる。
2	2 平等権－共生社会を目指して ・差別について、話し合いを通して多面的・多角的に考察するとともに、差別をなくすために自分にできることを考え、発表することができる。
3	3 アイヌの人々に対する理解度に関する世論調査とアイヌ民族の思いが綴られた資料を通して、アイヌ民族の願いを考えることで現在でも残る差別の現状を理解することができる。
4	3 自由権－自由に生きる権利 4 ランキングの活動を通して、自由について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を分かりやすく表現することができる。
5	4 社会権－豊かに生きる権利 ・統計資料などから、経済格差の拡大と生存権との関わりについて読み取り、その過程や結果を発表したり、要点を短文にまとめたりすることができる。
6	5 人権保障を確かなものに ・参政権や請求権にはどのようなものがあり、それらがなぜ重要なのか理解し、その知識を身に付けている。
7	6 「公共の福祉」と国民の義務 ・公共の福祉による人権の制限はどの程度まで許されるか、具体的な事例を基に多面的・多角的に考察し、意見交換をしたり、文章にまとめたりすることができる。
	自分の権利を守り、自分と同じように他人の権利も尊重する。

本時の目標

国民のアイヌ民族に対する理解度に関する世論調査とアイヌ民族の思いが綴られた資料を通して、アイヌ民族の願いを考えることで現在でも残る差別の現状を理解することができる。

本時の展開 (3 / 7)

子どもの学習活動

○アイヌ民族の差別体験について【資料Ⅰ】

- ・資料の4段落目まで範読する。
- 『おばあちゃんはアイヌだし、私だってアイヌの血を引いているとは言えませんでした。』には、どのような理由があるのだろう。
- ・自分もアイヌ民族の人と話したら差別されるかもしれない。
- ・みんなが笑っていて言い出せなくなった。

アイヌ民族はどのような願いをもっているのだろう。

○世論調査の読み取りについて【資料Ⅱ】

- 資料から読み取れることは何か考えよう。
- ①アイヌ民族に対する差別について
 - ・国民全体とアイヌ民族の差別や偏見の認識が違う。
 - ⇒アイヌ民族を無意識に差別している。
- ②アイヌ民族やアイヌ文化と接した機会について
- ③「民族共生象徴空間」の周知度
 - ・関心が低い。関心をもとうとしない人が多い。
 - ⇒行政や教育で接する機会が与えられていない。
 - ・広く知られていない。

○アイヌ民族の願いについて【資料Ⅰ】

- ・資料の5段落目以降を範読する。
- アイヌ民族はどんな願いをもっているのだろうか。
- ・アイヌ民族のことをもっと知ってほしい。
- ・アイヌ民族の歴史や文化などについて正しく理解してほしい。
- ・差別をなくしたい。

○アイヌ施策推進法について【資料Ⅲ】

- アイヌ施策推進法では、アイヌ民族の願いはどれだけ反映されたのだろう。
- ・アイヌ民族を「先住民族」と法律として初めて明記した。
- ・差別の禁止が定められた。
- 今日の授業を振り返り、気付いたことや考えたことを記入し、意見交換をしよう。

課題探究的な学習を取り入れた授業を充実させるセルフチェックの視点

セルフチェック1 (興味・関心・疑問をもてる)

アイヌ民族の思いが綴られた資料を読むことで、未だに差別がなくならない現状を理解する。

セルフチェック5 (多面的・多角的に考察)

国民全体からの視点とアイヌ民族の視点からの世論調査から多角的な考察ができるようにする。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

アイヌ民族のことについて、より国民に知ってもらい、アイヌ民族の歴史・文化を広く理解することで、差別をなくそうとしたり、アイヌ民族の伝統を今に生かす取組の支援を願い、できることを考える姿。

[領域及び生活のつながり]

特別の教科 道徳「相互理解・寛容」や小学校第6学年社会科「わたしたちの生活と政治」との関連を図る。

資料

1. 資料Ⅰの『おばあちゃんはアイヌだし、私だってアイヌの血を引いているとは言えませんでした。』理由はなぜだろう。

2. 資料Ⅱから読み取れることは何か考えよう。

① アイヌの人々に対する差別や偏見の有無について

② アイヌの人々やアイヌ文化と接した機会の有無 ③ 「民族共生象徴空間」の周知度

3. アイヌの人々はどんな願いをもっているのだろうか。

個人	グループ

4. 授業を通して気づいたこと、考えたことをまとめましょう。

3年 組 番 氏名

【資料1】

サイレント・アイヌ アイヌでも和人でもないと感じる私

この150年のアイヌの歴史を、新たな視点で見つめ直そうとしている人がいます。北海道大学の大学院で10年間、アイヌの歴史と社会制度を研究してきた石原真衣さん(36)です。

札幌で生まれ育った真衣さんは、12歳まで自分がアイヌのルーツを持っていることを知りませんでした。親戚同士の集まりの中で母が「民族」の話をしていたことをきっかけに、「実はアイヌの血を引いている」と教えられた真衣さん。この日、地元の新聞社が主催するシンポジウムの中で真衣さんは、親戚での話の中でさえも「アイヌ」という言葉が回避されていたことを印象深く語りました。

「アイヌでも和人でもない」と感じ、まるで「透明人間」だと思う自分。博士課程の集大成となる論文には、自分は何者か分からず、声を上げることもできない「サイレント・アイヌ」が多くいることを書きました。

真衣さんの心に深く刻まれた小学校時代のエピソードがあります。担任の先生が、昔銭湯でアイヌの人と一緒に全身毛だらけでびっくりした、ということのを笑い話として話したのです。話を聞いていたクラスメートも笑っている中、悲しい思いをした真衣さん。しかし、「おばあちゃんはアイヌだし、私だってアイヌの血を引いている」とは言えませんでした。

「その先生だけじゃなくて、私が今まで三十何年間で接してきた北海道民の多分全員が、目の前にアイヌのルーツを持つ人がいるかもしれないって誰一人思っていなかったの、それはすごく悲しい悲しいというか、生きづらいなあと感じます。」(真衣さん)

(中略)

自らのルーツに向き合い、アイヌの歴史を研究してきた真衣さん。アイヌのルーツを持っていても気にしないようにするような場所に何十年も放っておかれたという悲しみ。一人一人がこの大地と向き合いその歴史を知り、互いに対立するのではなく認めあうことで、社会は変えていけると、真衣さんは論文を結びました。

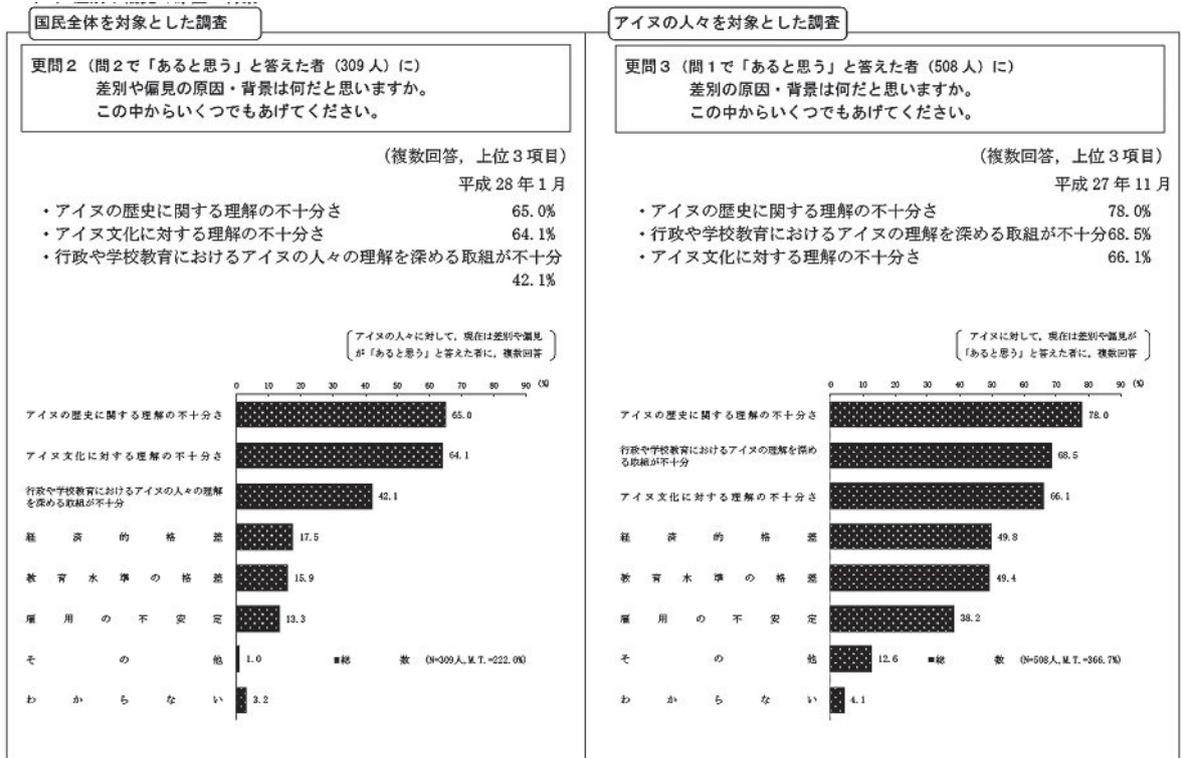
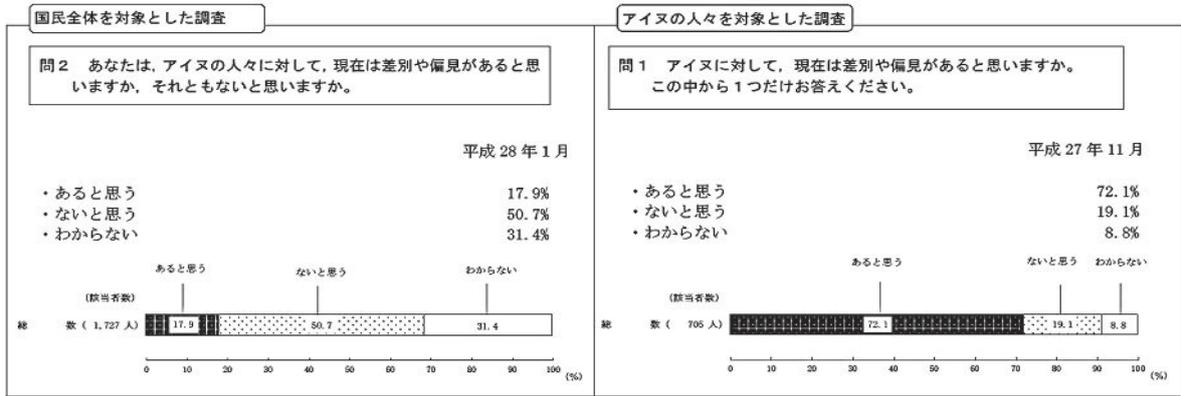
私は、いつか、アイヌと和人、
そして「サイレント・アイヌ」や
名付けえぬ人々が、
それぞれの〈痛み〉に心を寄せ、
「人間」として、この〈人間が住む大地〉(アイヌモシリ)で、共に、
語り始める日を夢見ている。

(真衣さんの論文より)

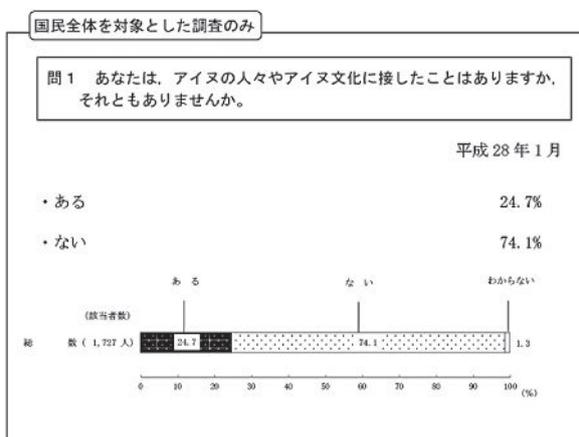
2018年7月27日放送 NHK北海道スペシャル
シリーズ北海道150年 第2集「アイヌモシリに生きる」より

【資料Ⅱ】

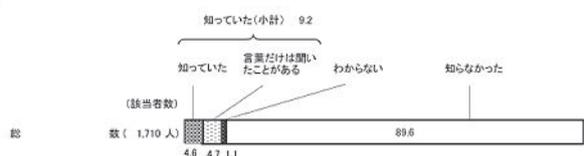
① アイヌの人々に対する差別や偏見の有無について



② アイヌの人々やアイヌ文化と接した機会の有無



③ 「民族共生象徴空間」の周知度



(出典)

国民のアイヌに対する理解度に関する世論調査 (平成28年2月)
 アイヌ政策に関する世論調査 (平成30年7月)

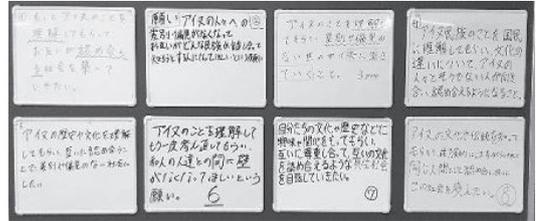
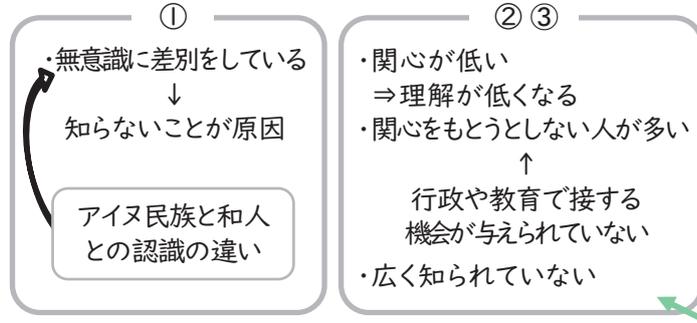
板書例

《平等権～共生社会を目指して～》

アイヌ民族はどんな願いをもっているのだろう。

◎グラフから読み取れることは？

◎アイヌ民族の願いとは…



【資料Ⅲ】

「先住民族」初の位置付け アイヌ新法が成立

法律で初めてアイヌ民族を「先住民族」と位置付けたアイヌ民族に関する新法は19日の参院本会議で、日本維新の会・希望の党を除く与野党各会派の賛成多数で可決、成立した。交付金制度創設などを通じ、従来の福祉、文化施策から地域振興を含む総合施策に踏み出す転換点となる。菅義偉官房長官は成立後の記者会見で「アイヌ民族の意見を尊重しながら、実効性のあるアイヌ施策を実施できるものとなる検討に努めていきたい」と述べた。①面＝審議は生々、30面＝民族衣装で国会傍聴 31面＝故郷野茂さん家族越え

新法はアイヌ民族の誇りを画を確定した市町村が対を尊重し共生社会を目指す。象、文化伝承を目的としたことを目的とし、差別を禁、サケの捕獲、国有林内の樹木採取などにも特別措置がされる。すでに道内の約40市町村が交付金制度に関心を示しており、政府は法施行後、速やかに制度の基

アイヌ新法のポイント

- 法律として初めてアイヌ民族を「先住民族」と位置付け
- アイヌ民族への差別や権利侵害を禁止
- 胆振管内白老町に開設予定の民族共生象徵空間(ワボボイ)の管理規定を設ける
- 地域計画を策定した市町村に対する交付金制度の創設
- 特別措置として国有林の樹木採取の規制緩和、サケの捕獲への配慮、高標登録の手数料軽減を行う
- 内閣に官房長官が本部長のアイヌ政策推進本部を置く

参院国交委員会の付帯決議のポイント

- 「先住民族の権利に関する国連宣言」の趣旨を踏まえ、諸外国の先住民族政策の状況にも留意し、アイヌ施策のさらなる検討に努める
- アイヌ民族への不当な差別的言動の解消に向けた実効性のある具体的措置を講じる
- 法施行後、施行状況について随時適切に検討を行い、課題に必要な措置を講じる。その際にはアイヌ民族の意見を十分踏まえる

胆振管内白老町に2020年4月に開設する「民族共生象徵空間(ワボボイ)」についても「アイヌ文化の振興などの観点」を位置付け、管理規定を明記。政府は年間来場者100万人を目標とする。また、内閣に閣僚でつくる「アイヌ政策推進本部」を置き、官房長官が本部長に就く。一方で、新法は生活向上施策のほか、土地や資源に関する具体的な権利や自治権などは盛り込まれてお

まず、アイヌ民族や専門家から不十分さを指摘する声も根強い。菅氏は会見で、こうした課題を今後の検討対象にするか問われ、「創設する交付金制度を活用し、つつ、地域振興を含む多岐にわたる施策を総合的に推進する」と述べるにとどめた。

参院国土交通委員会は18日にアイヌ施策のさらなる検討に努めるうち政府に求める付帯決議を採決している。(金十俊介)

①生徒資料から読み取った内容を記入する。

②グループごとにホワイトボードに意見を記入する。

参考文献等

- ・国民のアイヌに対する理解度に関する世論調査 (平成28年2月)
- ・アイヌ政策に関する世論調査 (平成30年7月)
- ・NHK北海道スペシャルシリーズ北海道150年 第2集 「アイヌモシリに生きる」 (2018年7月27日放送)
- ・北海道新聞2019年(平成31年)4月20日(土)朝刊

北海道新聞提供 (2019年4月20日朝刊)

全学年 美術科 【実施時期：通年】

■ アイヌ文様で飾る手鏡（木彫・工芸）



題材のポイント

アイヌ民族の文化に触れるひとつの機会として、「木彫」による作品制作を通して、そのよさや美しさを感じ取り味わうことをねらいとした。ただし、各学年の配当時数の中で、文様のデザインの考案から木彫の技法習得のためにかかる時間には限りがある。そこで、中学校の3年間を通して学ぶ題材構成とすることでその点を解決できるようにした。まず第1学年では、アイヌ民族への理解と共に、文様に込められた意味や願い、祈りなどを学びながら、その形から生まれる美しさやよさを切り絵で味わう。第2学年ではアイヌ文様を木彫で表現するための基本的な線彫りを学習し、特に三角刀の使い方を身に付ける。そして第3学年では、学んだことを生かし、それぞれの思いを込めてアイヌ文様のオリジナルデザインの考案と木彫に挑戦し、工芸作品として完成させることとした。

題材構成（1学年：2時間 2学年：4時間 3学年：10時間 合計16時間扱い）

生徒の学習活動	
本時	<p>◆第1学年 アイヌ民族とアイヌ文化について知ろう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">アイヌ文様に込められた意味や願いを考えてみよう</div> <p>(1) アイヌ民族の文化や生活について（1時間） (2) アイヌ文様の形の特徴を切り絵で味わおう（1時間）</p>
	<p>◆第2学年 アイヌ文様を木彫で表現してみよう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">アイヌ文様を線彫りで美しく表現するための技法を身に付けよう</div> <p>(1) アイヌ文様「モレウ」を練習用の板に下書き（1時間） (2) 外線彫り、内線彫り、あいだ彫り、ウロコ彫りの練習（3時間）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">文様は自然を敬うアイヌ民族の文化の表れである</div>
	<p>◆第3学年 「手鏡」をアイヌ文様で美しく装飾してみよう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">アイヌ文様の形を生かしたデザインを考え、彫りで表そう</div> <p>(1) 文様のアイデアスケッチ（1時間） (2) 図案の決定～板への転写（1時間） (3) 持ち手の加工（1時間） (4) 木彫（5時間） (5) 着色・塗装～鏡の取り付け（1時間） (6) 自己評価と鑑賞（1時間）</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">完成した作品に愛着をもち、アイヌ文様を生活に取り入れて楽しむ</div>

本時の目標

アイヌ民族が文様に込めた願いや形の特徴を理解し、大きさや形、使う目的に応じた美しいデザインと木彫表現ができるようにするとともに、手鏡を使う人や使う場所などを想像し、目的に応じた美しいアイヌ文様のデザインを創造的に表現できるようにする。また、アイヌ文様のデザインや木彫の魅力に気づき、主体的に創造活動の喜びを味わおうとする態度を養う。

本時の展開（第3学年 2 / 10）

生徒の学習活動

【本時に至るまでの学習活動】アイヌ文様の基本的な形の作り方や彫り方については第2学年までに学習済みである。それを踏まえて第3学年では手鏡への装飾のための図案づくりと木彫に挑戦する。日用品として身近において使われる道具であることやそれを使う相手を想定しながら、思いを込めて、丁寧に制作に取り組む態度を促したい。

使う人の心に残る、アイヌ文様の形を生かした手鏡のデザインはどんなデザインだろう。

◇手鏡のデザインを決定する

- ・手鏡の図案用に各自で試作したいいくつかのアイヌ文様の切り絵の中から、最もふさわしいと感じる図案をひとつに絞る。
- ・造形的な美しさと同時に、使う相手や場面などにも思いを広げながら、友達からの意見も参考に、最終的なデザインを決定していく。
- ・彫りの作業を見通して、シンメトリーの美しい構成と全体バランス、アイヌ文様やモレウ文様のあいだの「ル」の幅が、彫るために適切な間隔に保たれているかなどの確認をし、必要な修正を加え完成する。

◇図案を材料の板に転写する

- ・材料の板にはあらかじめ、縦と横の中心線を補助線として引く。
- ・下書きの作業がしやすいように、図案の切り絵はコピーしたものを使う。
- ・コピーした図案の裏面を濃い鉛筆で黒くカーボン紙状に塗りつぶす。
- ・塗りつぶした面を板にあて、中心がずれないようにマスキングテープなどで板に固定し、上からボールペンなどで輪郭をなぞり描きし転写する。
- ・転写した図案の形を整え、図案の3mm内側に内線用の二重線を引いておく。



◇手鏡の持ち手の部分を加工する

- ・平刀で角を面取りし、手になじむように丸みができるまで彫り、ヤスリを使わずに表面を整える。

[生徒一人一人の学びが深まった姿]

アイヌ文様をはじめとするアイヌ民族の文化に興味関心をもち、身近なものにそれを取り入れて、生活を豊かなものにしたたり楽しんだりする態度が身に付いている。

課題探究的な学習を取り入れた授業を充実させるセルフチェックの視点

セルフチェック2 (意欲を持続させる)

使う相手や使う場面を想像することで、制作への意欲を高める。

セルフチェック4 (協働して課題解決)

複数のアイデアの中から最終図案を決定する際にグループの友達の意見を参考にする。

セルフチェック3 (見通しをもつ)

材料への下準備は全員一斉に取り組み完了させる。その後の自分の彫りの課題に集中して向かうことができる。

[領域及び生活のつながり]

歴史分野「琉球とアイヌの人々がつなぐ交易」→アイヌ文化の成立

板書例



資料

アイヌ文様について

アイヌ文様の原点は直線と曲線である。儀礼用具や日常用具にこの文様を施したのは、美的な意味合いばかりではなく、魔除けや守護を願う信仰に基づくものだったという考えもある。木彫の文様には一般文と特殊文があるが、一般文には、アイウシ文様（括弧文）、モレウ文様（渦巻き文）、ラムラム文様（ウロコ文＝木彫に特有の文様）などがあり、それらを左右対称や連続的に組み合わせることでバリエーション豊かな文様が生み出される。一般文は食器や片口、盆、マキリなどの日常用具に多く使われた。

アイヌ文様の描き方

文様の図案は、彫るものに合わせて下描きをするが、材料に直接描く方法や、カーボン紙などで転写する方法、紙を四つ折りにして描く方法などがある。昔のアイヌ民族の子どもたちは、囲炉裏端で灰に箸や指で文様を描く練習をしたといい、親から子どもへと普段の生活の中で自然に文化が伝承されていた。初めて体験する生徒たちには、切り絵で試す方法が取り組みやすい。同じモレウの形でも、四つ折りにした紙の向きによって、でき上がりにいくつかのバリエーションが生まれることが分かる。

アイヌの文化に触れる

文様や彫刻の図案を自由につく

カーボン紙を準備し、削いで切り絵に転写する

人	
衣	
食	
住	
言	
祈	
史	

1年組 番 氏名



●モレウを書いてみよう

●モレウを切ってみよう

四つ折りにした用紙の向きによって、以下のように模様が変化します。

アイヌ文様の彫り方

<彫りの順序>

(1) 二重線の彫り→三角刀で彫る

①外線（そとせん）の彫り

三角刀を文様の内側に傾け図案を一周するように線彫りする。彫りの幅が3mm、深さも3mm程度を目安とする。

②内線（うちせん）の彫り

外線のすぐ内側を彫る。三角刀本来の切り口になるよう傾けず、1~2mm程度の浅めの深さで線彫りする。

(2) あいだ彫り→丸刀で彫る

モレウ、アイウシの中央部分をスプーンですくい取るように彫る。内線の彫りを傷つけないように注意しながら彫り進める。

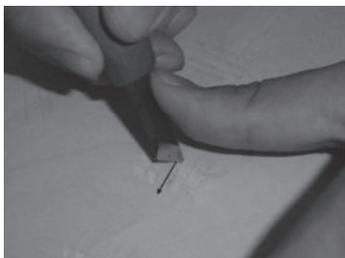
(3) ウロコ彫り→切り出し刀で彫る

①木目に対して斜め45度に交差する線を3mm間隔にシャープペンシルなどの細い線で下描きする。

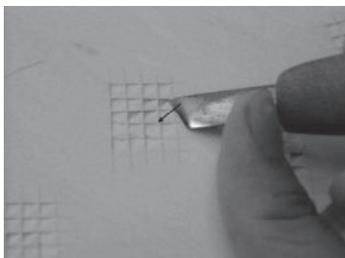
②下書きした全ての線について、切り出しの刃を立てて、下から上方向に仕切り線を入れる。

③板の向きを上下逆さにする。

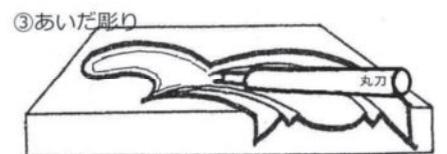
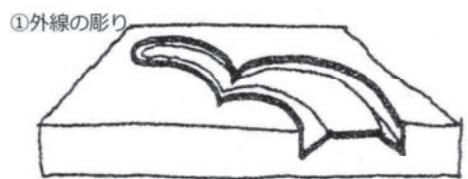
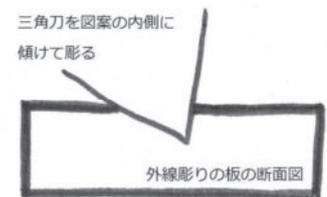
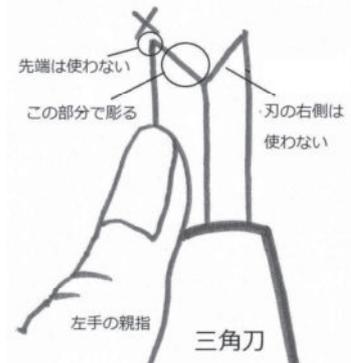
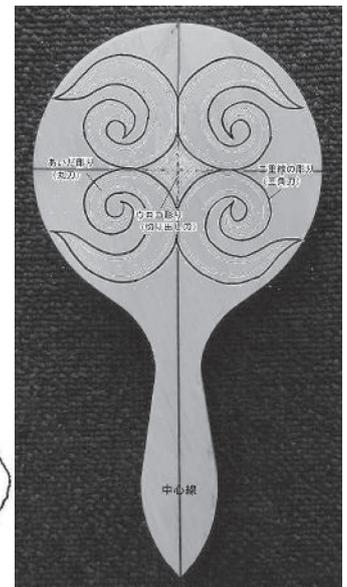
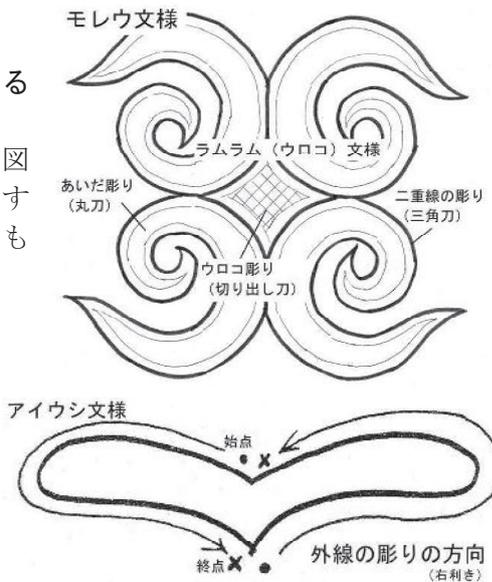
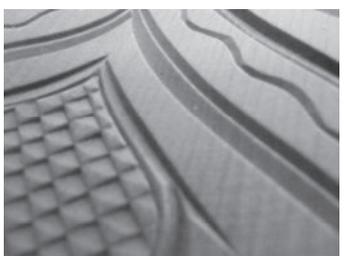
④刃を刃裏に返して、彫刻刀を寝かせた状態で、一枚のウロコ模様（ひし形）の上半分部分を1mm程度の深さでさらうように彫り、それを全てのウロコについて丹念に繰り返す。



刃を立てて仕切り線を入れる↑



刃を返してウロコを彫る↑



※二重線の彫りとあいだ彫りが完了した板の断面図

補足

※生徒によって彫刻刀の得意不得意や作業の進捗差が起こることが考えられる。少なくとも二重線の彫りができていれば文様の形は表せるので、個々の実態に応じて到達目標を加減するとよい。

※彫刻刀の彫りあとを大切にするため、ヤスリで磨くことは避け、着色塗料やニス、ワックスなどを塗って仕上げる。最後に鏡を木工ボンドで取り付けて完成する。

資料・参考文献等

- ・『アイヌ民族もんよう きり絵の世界へ』 監修小川早苗 エテケカンパの会
- ・平取町立二風谷アイヌ文化博物館

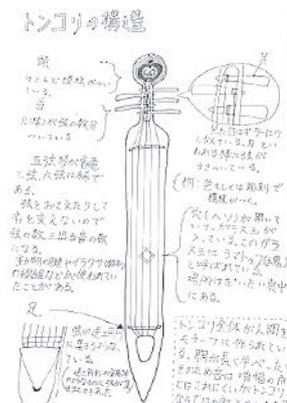
中学校第2学年 音楽科 【実施時期：9月】

■ トンコリに込めたアイヌ民族の思いを理解して、演奏しよう

題材のポイント

「トンコリがアイヌ民族の生活に果たした役割は何か」という問いを追究しながら、「イケレソツテ」という楽曲が生み出され、育まれてきた風土や文化、歴史などの背景を理解して、樺太アイヌから伝わる五弦琴「トンコリ」に必要な奏法、体の使い方などの技能を身に付ける。

題材構成（2時間扱い）

時	子どもの学習活動
夏休みの課題	<p>「郷土の民謡や芸能を調べてみよう」 ※興味のあるテーマを下記より一つ選び、A4用紙1枚にまとめる。</p> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ol style="list-style-type: none"> ① トンコリの絵を精密に、あるいは表現豊かに着色して描こう。 ② トンコリの音楽を聴いて、音楽の特徴から感じ取ったことをまとめ、そのよさを伝えよう。 ③ トンコリの楽器の構造を調べ、簡単な絵と共にまとめよう。 ④ トンコリの歴史、由来を調べて、まとめよう。 ⑤ トンコリの仲間の楽器を世界中から探して、写真で紹介しよう。 ⑥ トンコリに携わる人々の思いを、インタビューなどで聞き取ったり、インターネットで調べたりして、まとめよう。 </div> <div style="float: right; text-align: right;"> <p>トンコリの構造</p>  </div>
第1時	<p>○夏休みの課題「郷土の民謡や芸能を調べてみよう」レポートを紹介し合う。</p> <p>○「アイヌ民族：歴史と現在—未来を共に生きるために」を使って、アイヌ民族の歴史についての知識を得る。</p> <p>○1年生の鑑賞の学習「日本とアジアをつなぐ音」の振り返り 箏・カヤグム(朝鮮半島) ←→ トンコリ</p> <p>○アイヌ文化を尊重し、受け継ぐ意義を考えさせる。 (国連広報センター「アイヌの人々：日本の先住民族」の視聴)</p> <div style="float: right; text-align: right;">  </div>
第2時(本時)	<p>○ゲストティーチャー(アイヌ文化活動アドバイザー)を招いて、トンコリの演奏指導を受ける。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>トンコリはアイヌ民族の生活の中でどんな役割を果たしていたのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な奏法、体の使い方 ・ 楽器の音色や響きと奏法との関わりの理解 ・ 曲の背景を理解し、それらにふさわしい表現の創意工夫 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>この曲は〇〇として演奏されていた曲なので、□□□□のように演奏したい。</p> </div>

本時の目標

トンコリに関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい表現を創意工夫するとともに、主体的・協働的にトンコリの表現の学習に取り組み、演奏の楽しさを体験することを通して、アイヌ民族の音楽文化を尊重しようとする態度を養う。

本時の展開 (2/2)

子どもの学習活動

○アイヌ文化活動アドバイザーの紹介

**トンコリはアイヌ民族の生活の中で
どんな役割を果たしていたのだろう。**

○トンコリの解説と模範演奏を聴く。(アドバイザーによる全体指導)

○トンコリ体験① (ペア活動)

- ・基本的な奏法、身体の使い方
- ・楽器の音色や響きと奏法との関わりの理解
- ・「イケレソツテ」の演奏に必要な奏法の理解

○「イケレソツテ」の解説・演奏のポイントを知る。
(アドバイザーによる全体指導)

○トンコリ体験② (ペア活動)

「イケレソツテ」の練習
曲の背景を理解させ、それらを生かす奏法の工夫について、
アドバイザーが生徒の間を回って、個別指導する。

○「イケレソツテ」の演奏発表
生徒が、演奏発表する。
演奏前に、言葉でどのように演奏したいかを述べる。

**この曲は〇〇として演奏されていた曲
なので、□□□□のように演奏したい。**

○ワークシートに「アイヌ民族がトンコリに込めた思い」や「生活の中でどんな役割を果たしていたのか」をまとめる。

**課題探究的な学習を
取り入れた授業を
充実させる
セルフチェックの視点**

**セルフチェック1
(興味・関心・疑問がもてる)**

前時までの学習で自ら調べた「トンコリ」について、
専門家から演奏に必要な奏法や身体の使い方を学び、
作品の背景についても理解することで、生徒の興味・関心を持続させる。

**セルフチェック4
(協働して課題解決に向かう)**

二人で1台のトンコリで学習することで、音楽や言葉によるコミュニケーションが生まれやすい環境をつくる。他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていく学習の充実を図る。

[領域及び生活のつながり]

これまで第5学年及び第6学年の音楽科において取り上げる旋律楽器として例示していた和楽器が、第3学年及び第4学年の例示にも新たに加わった。

配慮事項：箏そう(こと)など、無理なく取り組むことができ、我が国の音楽のよさを感じ取れる和楽器の中から、児童や学校の実態に応じて選ぶようにする。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

「この曲は〇〇として演奏されていた曲なので、□□□□のように演奏したい」というように、思いや意図をもって、よりふさわしい演奏の仕方を工夫しようとする。

授業記録用紙の感想などに、これからの自分の生活の中で、アイヌの音楽文化を尊重していきたいというような文言が見られること。

ワークシート例

♪ トンコリに込めたアイヌの人々の思いを理解して、演奏しよう ♪

2年 組 番氏名 _____

課題

トンコリはアイヌの人々の生活の中で、どんな役割を果たしていたのだろう

「イケレソツテ」

4 5 2 ② ○			
4 5 2 - 2	4 5 2 ② ○	4 5 2 - 2	4 5 2 ② ○
4 5 2 1 2	4 5 2 ② ○	4 5 2 1 2	4 5 2 ② ○
4 5 2 1 3	4 5 3 ③ ○	4 5 3 1 3	4 5 3 ③ ○
4 5 3 1 3	4 5 3 ③ ○	4 5 3 1 2	4 5 2 ② ○

最初に戻る

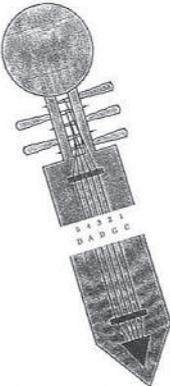
アイヌの人々がトンコリに込めた思いとは？
生活の中でどんな役割を果たしていたの？

私はこんな風に演奏したい！

イケレソツテは、 _____
演奏されていた曲なので、
私は、 _____ ように演奏したいです。

② は押さえる
○ 休み
L 左手
- のばす

↑ 4
5 爪側でシュツ



イケレソホテ (1)

作曲者 シロフメ
演奏者 西平ウメ
収録年 1994年

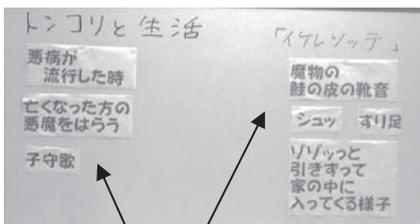
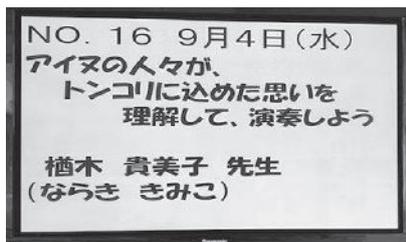


アイヌ文化アドバイザーからいただいた数字譜と「西平ウメ 伝承トンコリ楽曲集と演奏法」の五線譜を参考にワークシートを作成

〈生徒の感想から〉

- ・トンコリを通して、アイヌ民族の文化などに少しだけ、触れることができました。アイヌ民族だけではなく、他の民族の方に対する偏見もなくなるといいなと思いました。
- ・アイヌ民族については知っていましたが、現在のことについてなどは、知らないことばかりでした。アイヌ民族の楽器を演奏してみて、歴史や文化など、少しですが、知ることができました。もう少しトンコリを弾いてみたかったです。

授業の実際の様子



左側：生活の中でのトンコリの役割
右側：「イケレソツテ」が表現しているもの



「アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために」P20 チェプケリ（麂皮鞋）



教育課程上の位置付け

中学校学習指導要領（平成29年告示）

音楽科の目標（省略）→第2学年及び第3学年 1目標（省略）

2内容 A表現

(1)歌唱の活動を通して、(省略)

(2)器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、**曲にふさわしい器楽表現を創意工夫**すること。

曲にふさわしいとは、多くの人が共通に感じ取れるような、曲固有のよさや特徴の捉え方を意味している。したがって、本事項は、**多くの人が共通に感じ取れるような、曲固有のよさや特徴を捉えた上で**、その曲について解釈し、第1学年よりも更に自らの価値判断を伴ったより豊かな音楽表現の創意工夫ができることを目指している。指導に当たっては、創意工夫する過程を大切に、生徒の思考の流れを把握しながら、適切な手立てを講じ、**その曲にふさわしい器楽表現に対する思いや意図の質を高められるよう留意**する必要がある。（中学校学習指導要領解説音楽編より）

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) **曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり**

(イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり

「曲想と曲の背景との関わり」の理解を加えることは、生徒が教材曲のよさを捉え直し、更に曲に対する捉え方を質的に深め、自分にとっての意味を見いだしたり、「なぜこの楽器がこの地域で生まれたのか」、「**音楽が人々の生活や社会に果たす役割は何か**」などについて考えたりすることにつながるものである。（中学校学習指導要領解説音楽編より）

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために**必要な奏法、身体の使い方**などの技能

(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能

【内容の取扱いと指導上の参考事項】

- ・音楽活動を通して、それぞれの教材等に応じ、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせるなどして、生徒が音や音楽と生活や社会との関わりを実感できるよう指導を工夫すること。
- ・器楽教材は、次に示すものを取り扱うこと。
我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切で、生徒にとって親しみがもてたり意欲が高められたり、生活や社会において音楽が果たしている役割が感じ取れたりできるもの。
- ・和楽器を用いるに当たっては、常に生徒や学校の実態に応じるとともに、可能な限り、郷土の伝統音楽を取り入れることが肝要である。なお、和楽器を器楽表現の指導に用いることはもちろんであるが、歌唱や創作、鑑賞との関連も図りながら、実際に和楽器に触れ、体験することで、我が国や郷土の伝統音楽についての学習を深めることが期待できる。その際、視聴覚機器などを有効に活用したり、地域の指導者や演奏家とのティーム・ティーチングを行ったりすることも考えられる。生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさなどを味わい、愛着をもち、我が国の音楽文化を尊重する態度を養うことが、和楽器を用いる本来の意義であり、そのために一層の指導の工夫が求められる。

参考文献等

- ・富田友子『西平ウメ伝承 トンコリ楽曲集と演奏法』retoroAFE 株式会社
- ・『アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－』公益財団法人アイヌ民族文化財団
- ・『アイヌの人々：日本の先住民族』国連広報センター（動画）
- ・トンコリ借用…サッポロピリカコタン、アイヌ民族文化財団

高等学校第2学年 総合的な探究の時間

■クナシリ・メナシの戦いと『夷酋列像』
いしゅうれつぞう

探究的な学習を促す展開のポイント

- 1 時間目……『夷酋列像』の中でも迫力に満ち、虚構性の高い「ツキノエ像」**教材①**に着目し、この人物の属性（何人、どういう立場）や、絵から気付いたことを協働的に探究する。
- 2、3 時間目…前時の学習を踏まえ、もし、当時のアイヌ民族が『夷酋列像』を見たら、どのように思ったか、状況証拠**教材②**をもとに対話し、考える。



学習展開（3時間扱い）

生徒の学習活動

『夷酋列像』特に「ツキノエ」像に着目して、そこに描かれているのは何人か、気付いたことをまとめ、発表する。（1時間目）

- ・気が付いたことをまとめて発表する。
 - ・『夷酋列像』が作成された歴史的背景を、**教材②**で確認する。
- ※「ツキノエ像」を見て、感じたことや気付いたことを発表するよう促す。一人一人の学びを保障することを念頭に置き、発表内容は要点を網羅的に板書する。

もし、当時のアイヌ民族自身が、『夷酋列像』を見たとしたら、どのように思っただろうか？**教材②**を踏まえて対話し、考えてみよう。（2、3時間目）

※アイヌ史の学習においては、状況証拠を確認した上で、アイヌ民族の主体性を考察していく作業が欠かせない。作者である松前藩家老・蠣崎波響の叔父松前廣長が書いた『夷酋列像』の序文には、絵を常に藩主の傍らに置き、松前に「味方」した12人を「顕彰」し、二度と和人に反抗することのないようアイヌ民族に見せるべきと記された。したがって松前城下のアイヌ民族は、この絵を見たと推定される。

〈生徒の発話（例）〉

写生しているわけではなく、作為も含まれているので、実際のツキノエやイコトイとは別人になっているのではないかと思います。松前藩だけでなく、ロシアや中国とも貿易していたことが読みとれるが、人相があまりよくなく、アイヌのよいところがかき消されているようにも感じました。

〔子ども一人一人の学びが深まった姿〕

『夷酋列像』の歴史的背景をクラス全員で確認し、それを踏まえ、各班で課題を協働的に探究する。近世の北海道を舞台にしたアイヌ民族の歴史を、世界史的視野の中に置くとともに、アイヌ民族の側から歴史を捉える視点の多面性をもつ。

セルフチェック1
（興味・関心・疑問をもてる）

『夷酋列像』の作為性について探究する。『夷酋列像』は、写実性が弱く、虚構性が強いことに着目し、作為性の要素を明らかにするよう協働的に探究する。

セルフチェック2
（意欲が持続する）

アイヌ民族は、和人によって鎮圧・征服される存在としてのみ捉えるのではなく、中国東北部との交易によって「蝦夷錦」を得ていることや、ロシアとの交易によってロシア製のブーツやコートを得ていることなど、近世のアイヌ民族の生活と文化の国際性に気付くようにする。また、独自の国際的な交易体制を築くアイヌ民族と、その富に目を付ける本州商人と松前藩、そして鎖国を維持しようとする江戸幕府との関係の中で、アイヌ民族の自立した生活が徐々に圧迫されていくことを探究する。

〔領域及び生活のつながり〕

近世アイヌ民族の歴史を、国際的な視点をもって多面的に捉える。そして、同じ近世でも、18世紀末、当時のアイヌ民族が置かれた、松前藩、江戸幕府との政治的な関係を踏まえ、アイヌ民族の側から歴史を捉え、考察する。

高等学校第2学年 総合的な探究の時間

■アイヌ文化の継承と発信～知里幸恵～

探究的な学習を促す展開のポイント

アイヌ民族の歴史を学ぶ高校生の中には、アイヌ民族に対する開拓使による政策を無批判に受け容れる傾向の生徒もいる。そこに差別の温床があることに生徒が気づき、克服することができるよう、学習展開を工夫している。



学習展開（2時間扱い）

生徒の学習活動

『アイヌ神謡集』序、そして「^{ふくろう}鼻の神が自ら歌った謡 銀のしずく 降る降るまわりに」が伝えていることは何か。（1時間目）

- ・ 知里幸恵 19 歳（1922 年）の肖像写真を黒板に貼る。教材①
- ・ 幸恵のプロフィールを簡潔に確認した後、各班で、『アイヌ神謡集』の「序」及び「鼻の神が自ら歌った歌」教材②を班で音読（輪読）させる。そして、幸恵が願ったこと、込められたメッセージとはどのようなものかを探究する。



〈生徒の発話（例）〉

『アイヌ神謡集』序文を読んで、文化が消えていくことの悲しみが伝わってきた。文化を後世に残そうとする知里幸恵さんの姿から、彼女が本当にアイヌを愛しているのだということが分かった。

開拓によってアイヌ民族の文化や言葉が失われたが、「北海道の発展のためには仕方なかった」という意見がもしあったとしたら、あなたはどのように答えますか。（2時間目）

- ・ 開拓政策がアイヌ民族にどのような苦難をもたらしたのか、年表を作成した上で、協働的に探究する。

〈生徒の発話（例）〉

アイヌ民族が今まで大切にしていた文化を発展のために奪うというのは違うと思う。アイヌ民族は、自分たちの習慣を禁止されたり、樺太や宗谷から強制移住させられたりするのはとても辛かったと思います。

開拓政策が進められるが、アイヌ民族は、文化が奪われることを黙って受け容れていたわけではない。開拓政策の中で差別と苦闘しながらも、知里幸恵は主体的にアイヌ文化を継承・発信した。

[子ども一人一人の学びが深まった姿]

アイヌ民族による文化・芸術創造の歴史に敬意を表すること、そしてその芸術に触れることにより、自分の世界観が豊かになること、それらを自分自身の言葉で表現できるようになること、特に、偏狭な「開拓主義史観」を克服するような視点から考察することで、生徒一人一人の学びが深まる。

セルフチェック 1
(興味・関心・疑問をもてる)

知里幸恵が苦闘の中でアイヌ文化を継承し、発信したことを念頭に置きながら、彼女の肖像をしっかりと見つめる。

セルフチェック 5
(多面的・多角的に考察)

「夷酋列像」はアイヌ文化を表象したものではなく、それは、江戸幕藩体制の中で生き残りをかけた松前藩による、政治的な産物である。一方で、知里幸恵『アイヌ神謡集』の刊行は、アイヌ自身が主体的に民族文化を継承し、発信した優れた実践例である。北海道の歴史を、開拓の視点からのみ見るのではなく、先住民自身の側から考える視点は更に深められなければならない。

[領域及び生活のつながり]

『アイヌ神謡集』の詩、言葉の美しさを味わう。他教科との横断的な学習が可能である。その韻文が、差別と苦闘する中から生まれたことにも目を向ける。

高等学校指導展開例の教材及び参考文献等

■アイヌ語地名を探せ！～生徒の生活する地域の歴史を考える～

教材の出典

教材① 山田秀三（2013）『アイヌ語地名を歩く』北海道新聞社

教材② 『新詳高等地図』帝国書院

参考文献等

- ・高橋亜希子（2013）『総合学習を通じた高校生の自己形成』東洋館出版社
- ・平山裕人（2000）『アイヌの学習にチャレンジ その実践への試み』北海道出版企画センター
- ・山田秀三（2013）『アイヌ語地名を歩く』北海道新聞社

■クナシリ・メナシの戦いと『夷酋列像』

教材の出典

教材① 根室市博物館開設準備室編（1994）『郷土の歴史シリーズ1
クナシリ・メナシの戦い』根室歴史研究会

教材② 「夷酋列像」展実行委員会、北海道博物館編（2015）『夷酋列像
蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界』北海道新聞社



参考文献等

- ・井上研一郎（2004）「夷酋列像—痛恨の肖像」（榎森進編『アイヌの歴史と文化Ⅱ』創童舎）
- ・加藤公明（2000）『考える日本史授業2』地歴社
- ・川上淳（1990）「アイヌ首長層と寛政の蜂起」（根室シンポジウム委員会編『根室シンポジウム クナシリ・メナシの戦い 三十七本のイナウ 寛政アイヌの蜂起二〇〇年』北海道出版企画センター）
- ・根室市博物館開設準備室編（1994）『郷土の歴史シリーズ1 クナシリ・メナシの戦い』根室歴史研究会
- ・北海道・東北史研究会編（1996）『根室シンポジウム「北からの日本史」メナシの世界』北海道出版企画センター

■ アイヌ文化の継承と発信～知里幸恵～

教材の出典

- 教材① ・ 知里幸恵 (1984) 『遺稿 銀のしずく』 草風館
- 教材② ・ 『アイヌ神謡集』 知里幸恵編訳の「序」、及び「梟の神の自ら歌った謡『銀の滴降る降るまわりに』」
- 教材③ ・ 北海道環境生活部アイヌ政策推進室 (2016) 『北海道開拓史年表』
- ・ 帝国書院編集部編 (2014) 『図説日本史通覧』
- ・ 知里幸恵 銀のしずく記念館ホームページ (<https://www.ginnoshizuku.com>)



参考文献等

- ・ 加藤裕明 (2017) 「総合学習における教育内容の検討—高校におけるアイヌ史学習の主体的、協働的な学びの視点から—」 (北海道地域文化学会編『北海道地域文化研究』第9号)
- ・ 知里幸恵編訳 (1978) 『アイヌ神謡集』 岩波書店
- ・ 知里幸恵 (1984) 『遺稿 銀のしずく』 草風館
- ・ 藤本英夫 (1991) 『銀のしずく 降る降るまわりに—知里幸恵の生涯—』 草風館
- ・ 知里幸恵 銀のしずく記念館ホームページ (<https://www.ginnoshizuku.com>)